

深沢と腰越の谷戸より

CPCの会(湘現会分科会)

青野正宏

CPCの会とは

- 鎌倉を中心とする湘南地区のシニアを会員とする湘南鎌倉生涯現役の会(略称 湘現会)の一分科会
- C(Community) P(Photograph)C(Contribute)の頭文字 写真を通じて地域社会に貢献する。一カメラ好きのメンバが集まってできた会
- ただし、現在は必ずしも写真が趣味の人間の集まりではなく、鎌倉の歴史・文化などの新旧比較にウエイトをおいている。写真家もいる。
- 会の正式名称は「鎌倉の今昔探索の会」と改称したが、継続性の観点からCPCの名を併用

最近10年の活動

- 旧鎌倉地区を除く鎌倉市内(大船・玉縄・深沢・腰越)の各地区の谷戸を図書館と合同で調査(旧鎌倉は10年前に完了)
- 各地区の人の協力を得て、昭和20年代と現在(平成20年代)との比較、主要ポイントの撮影、特筆事項などを、「(続)鎌倉谷戸の記録」としてまとめた。

今回の発表

深沢・腰越地区について
「(続)鎌倉の谷戸(下)を用
いて新旧比較を中心に

その他、鈴木正一郎氏
撮影他 深沢・腰越の
古写真を一部援用



地図と空撮写真

- 地図は鎌倉市図書館所蔵の平成26年1/2500の地図と昭和29年1/3000を使用
- 空撮写真は国土地理院がインターネットで公開している空撮写真を利用規約に従って利用
 - 最近のものは平成26年～平成19年撮影
 - 過去のものは終戦直後のもの

深沢・腰越の特徴

緑地が多い

台峯 常盤山 広町の三大
緑地がすべてこの地域



台峯

常盤山

広町

しかし

丘陵を切り崩し、
宅地化した場所も
多い



寺分

梶原

萩郷

琵琶田

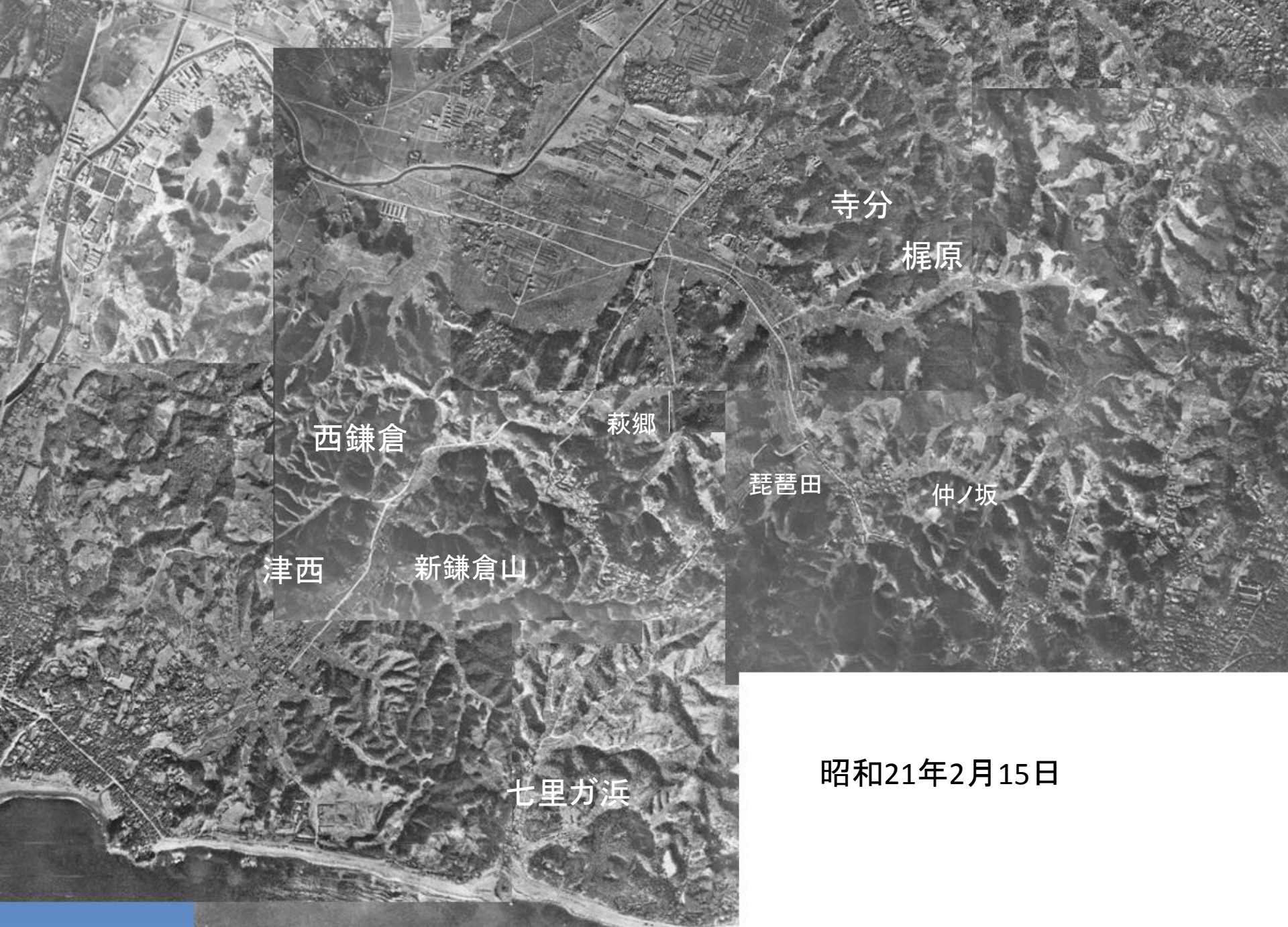
仲ノ坂

西鎌倉

新鎌倉山

津西

七里ガ浜



寺分

梶原

萩郷

西鎌倉

琵琶田

仲ノ坂

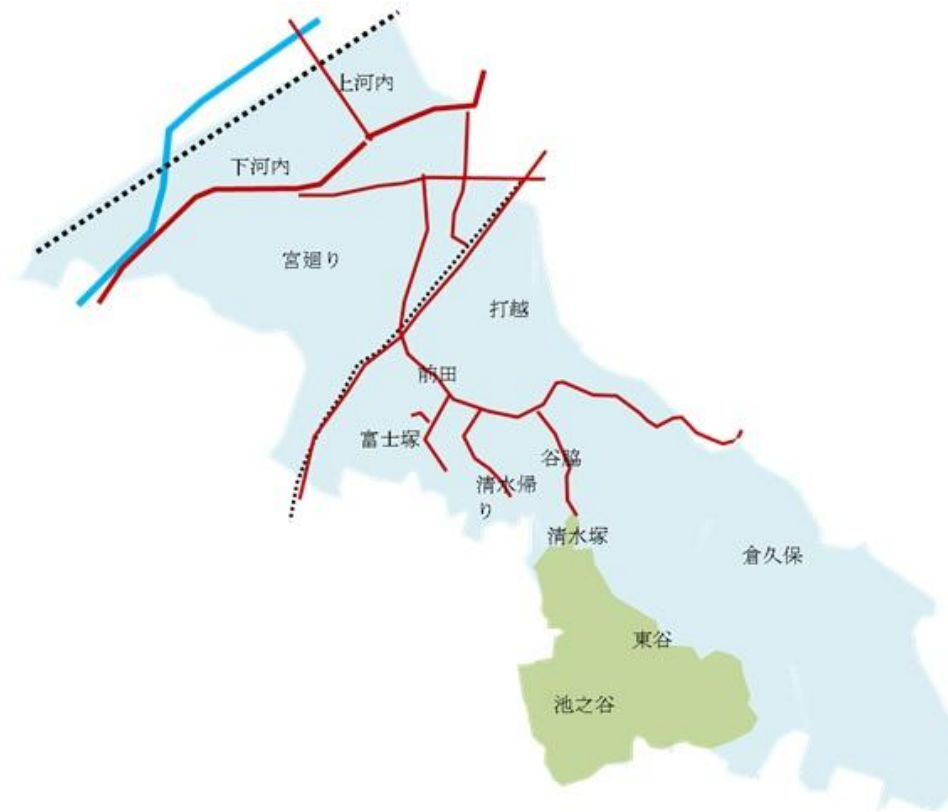
津西

新鎌倉山

七里ガ浜

昭和21年2月15日

山崎

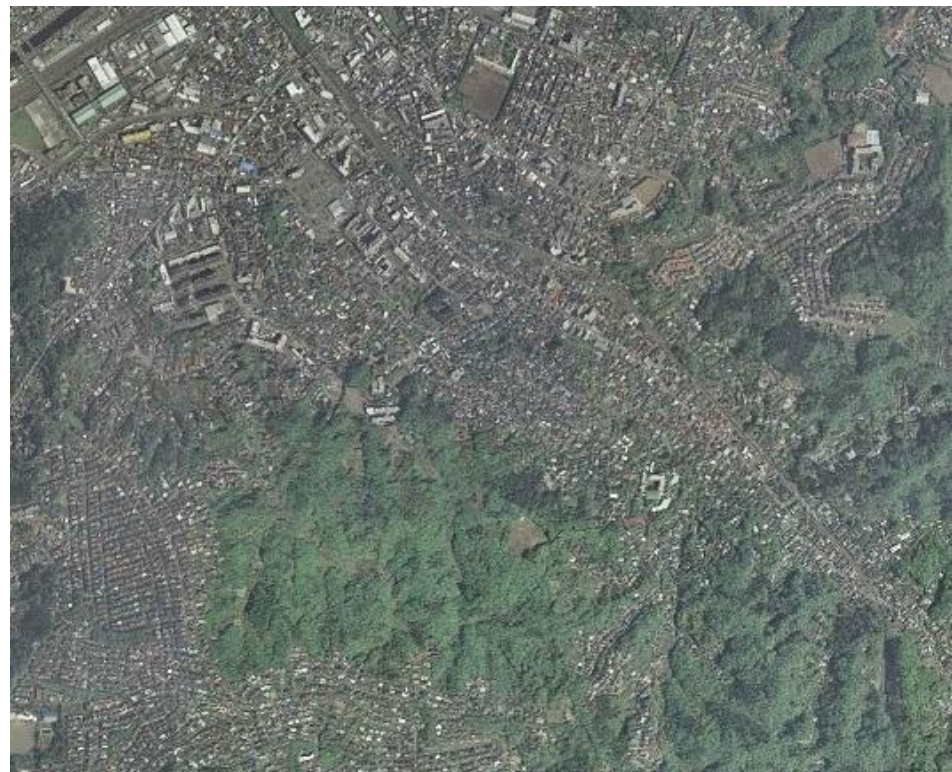


山崎の特徴

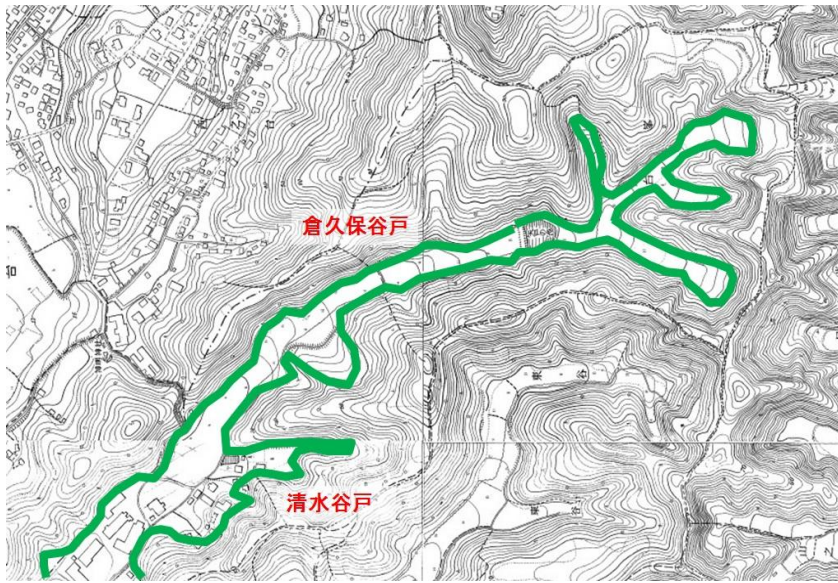
- 山崎は山の「さき」という意味で天神山のこと
- 北部は平野(田園地帯→工場・住宅地帯)
- 南部は緑地帯(台峯・鎌倉中央公園)
- 宅地化は進んだが、造成地は少ない
- 尾根の上の畑が多く残されている。



昭和21年2月15日



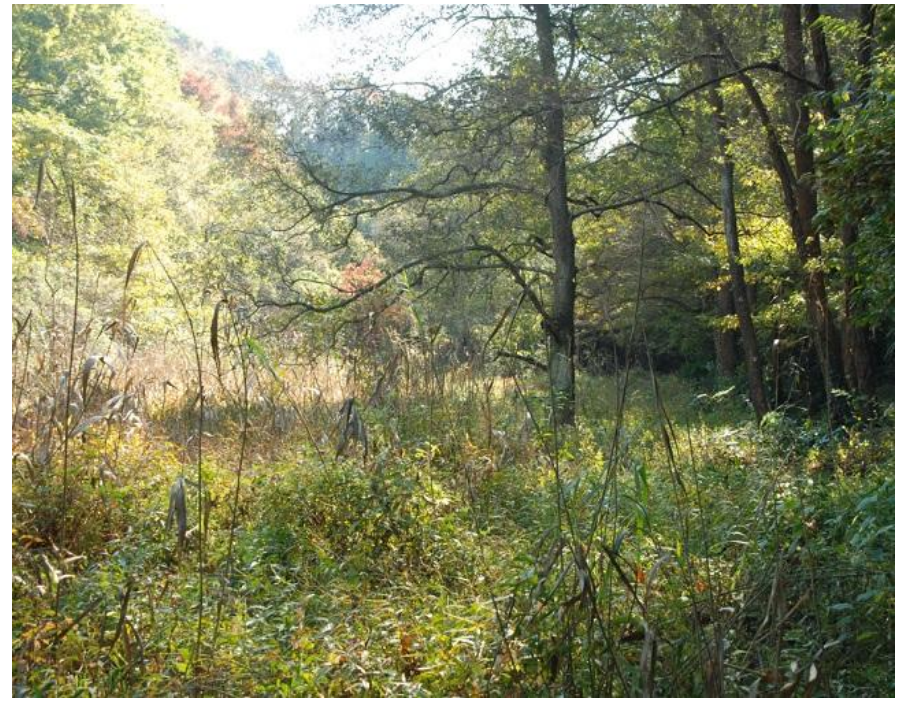
平成19年4月26日



昭和29年

平成26年

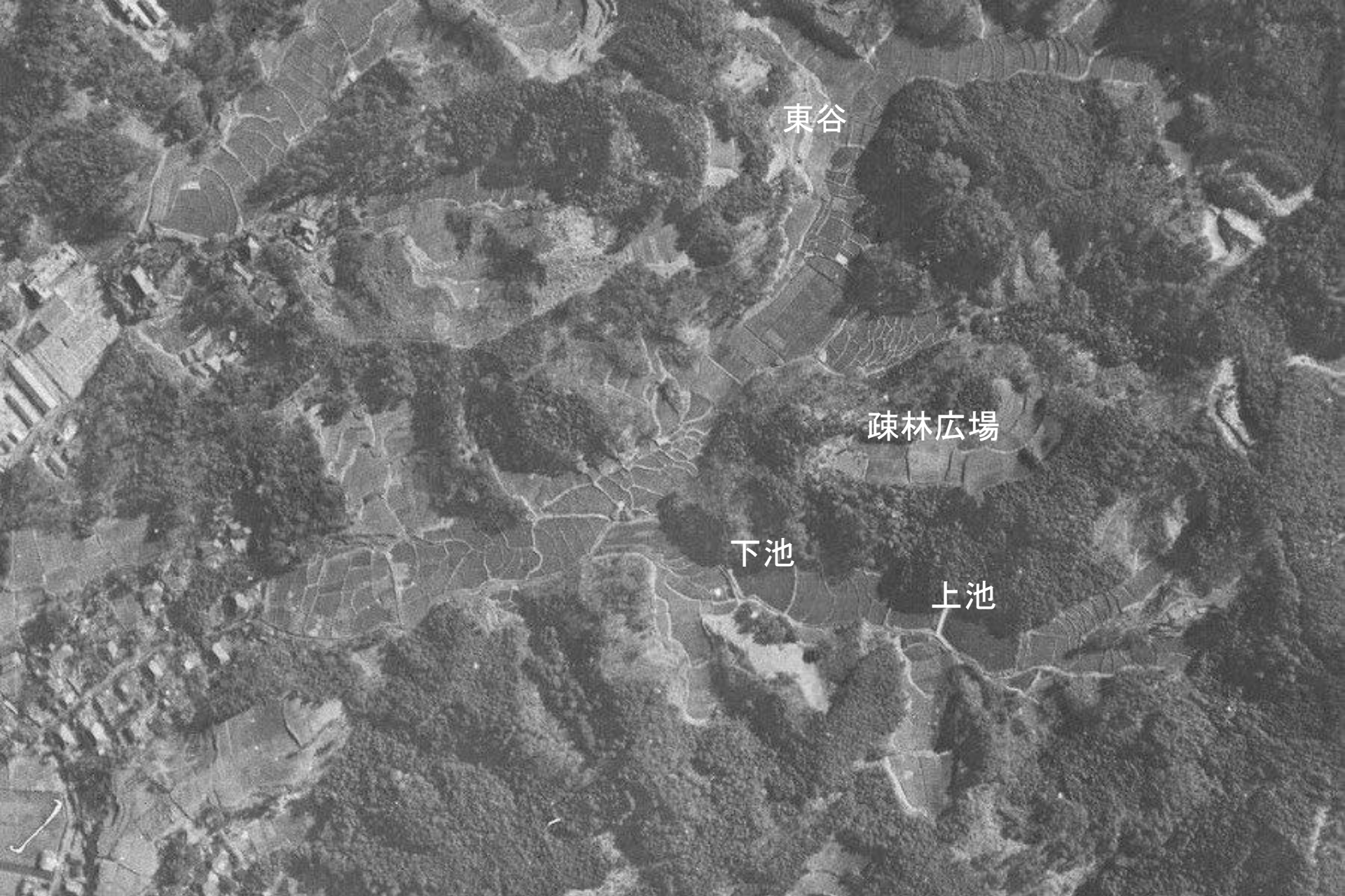
倉久保谷戸(台峯)と清水谷戸(星岡窯跡)
谷戸の水田から湿地帯へ



昔は水田 今は湿地
帯



山崎小学校付近から倉久保谷戸を望む



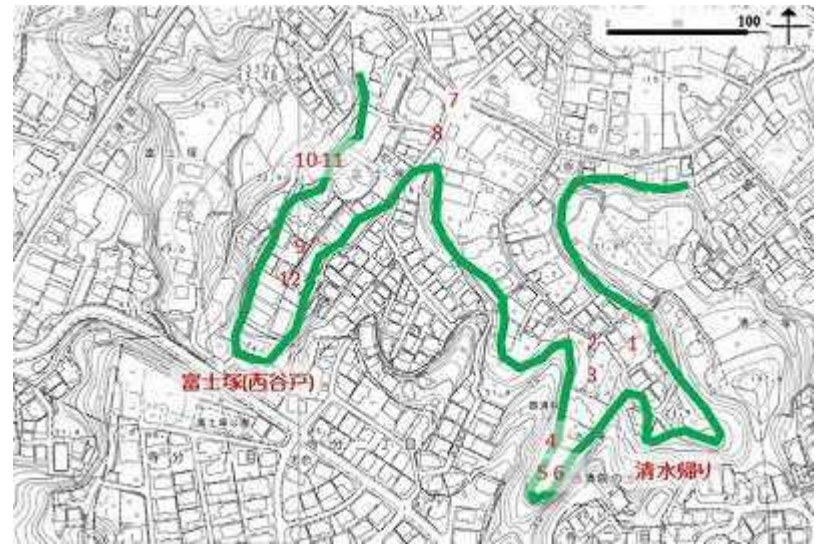
東谷

疎林広場

下池

上池

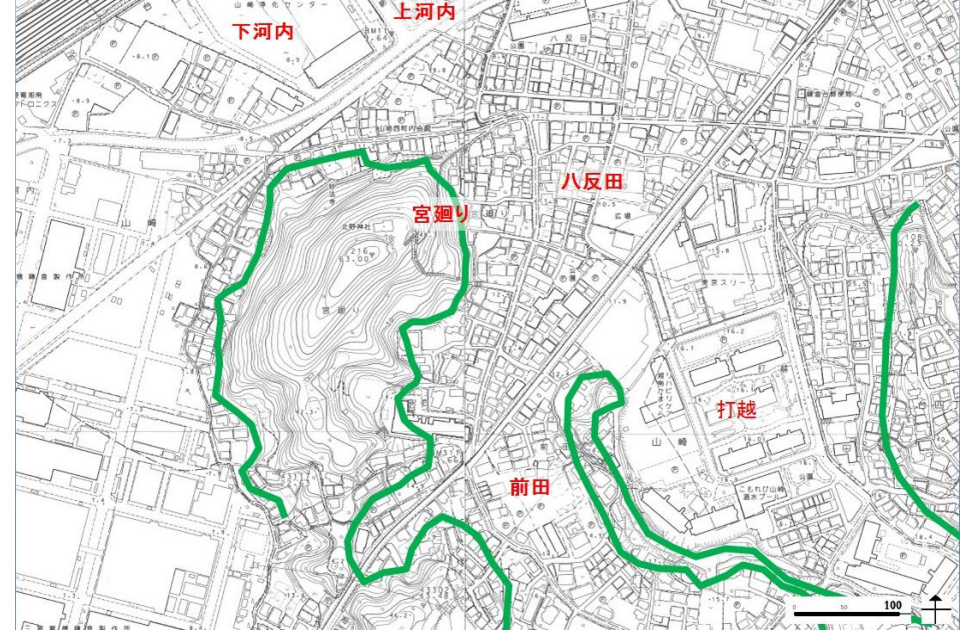
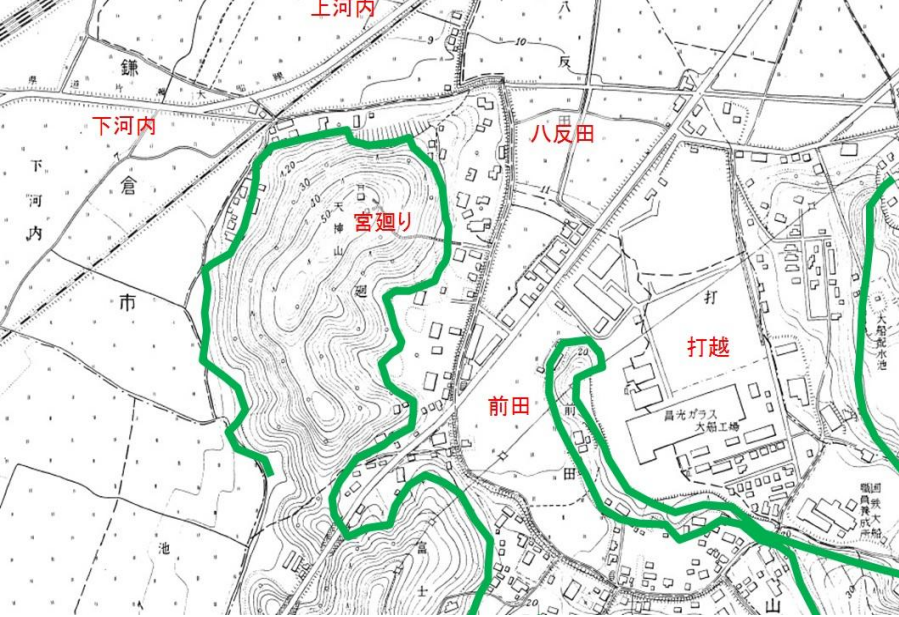




清水帰りと富士塚
住宅が増えたこと以外は大きな変化なし



清水帰りの谷戸(昌清院のある谷戸)



打越 前田 宮廻り 八反田

打越と前田の間はわずかに尾根となっている

寺分・上町屋





昭和21年2月15日



平成19年4月26日

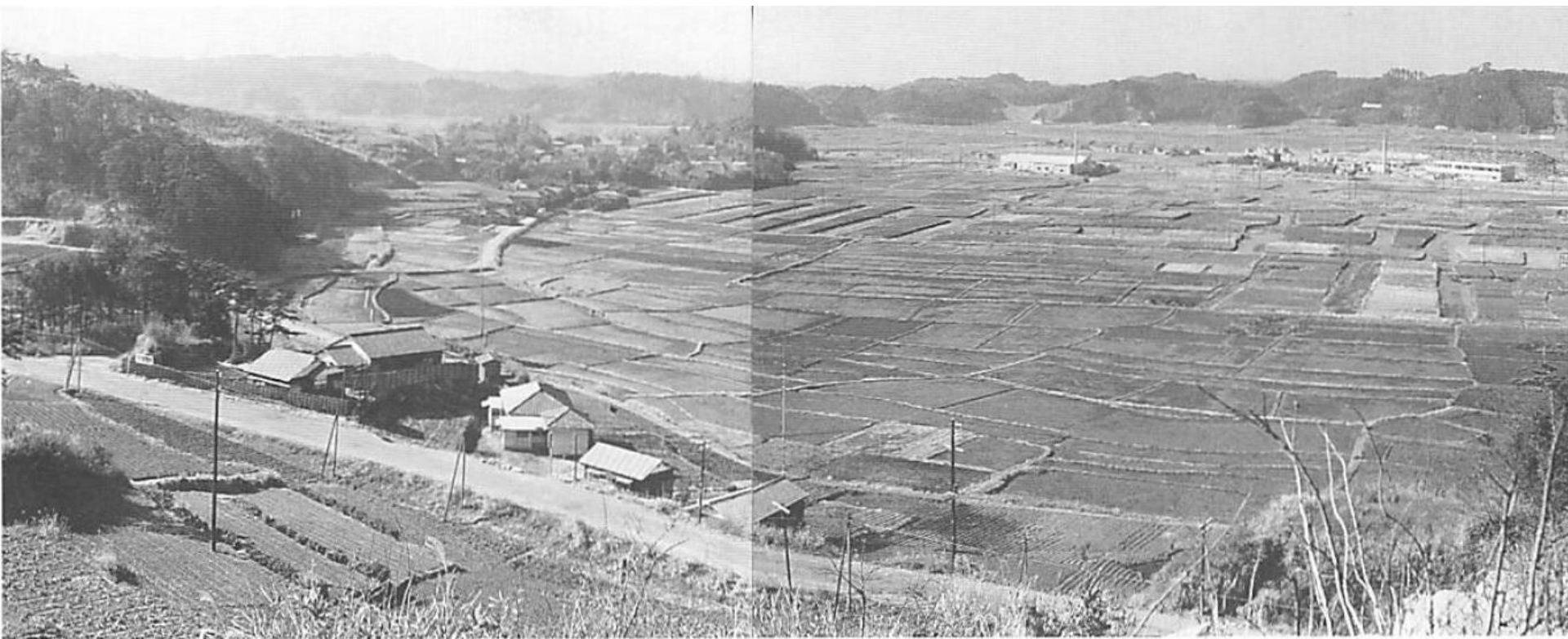
上町屋

集落地を除き、大部分が農地



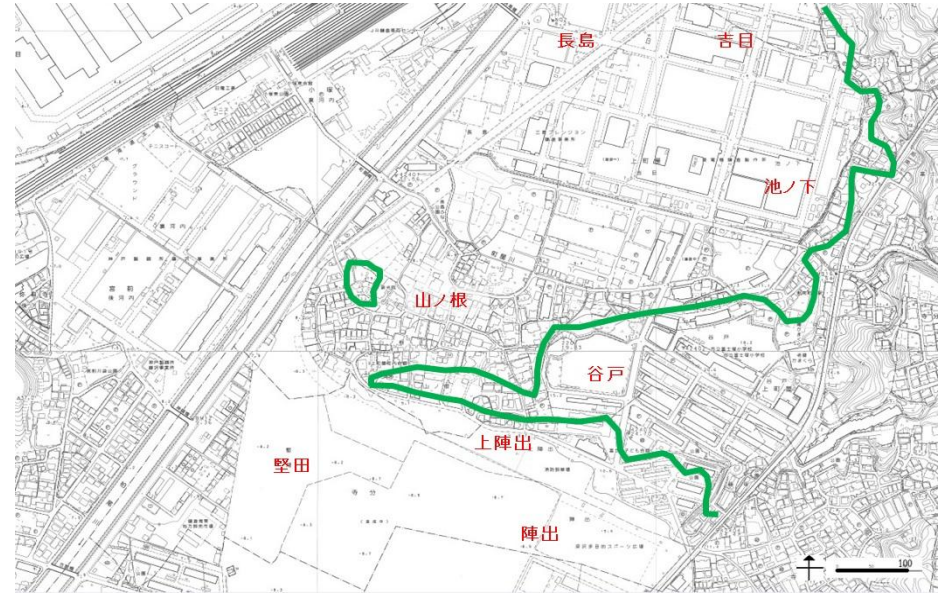
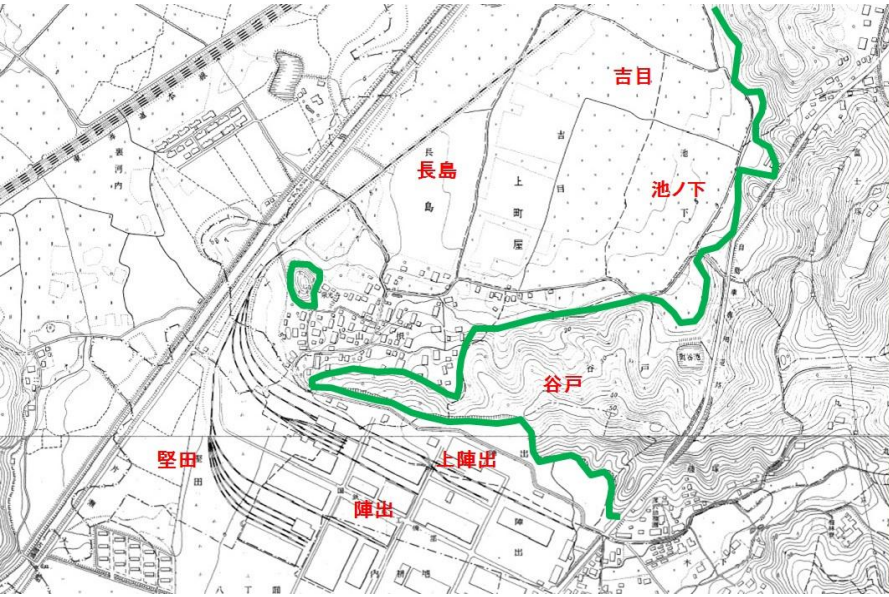
主要部分が工場

集落地はそのまま 農地も一部残っている。
谷戸は、元からほとんどない。



S. 35年 1月 町屋側から

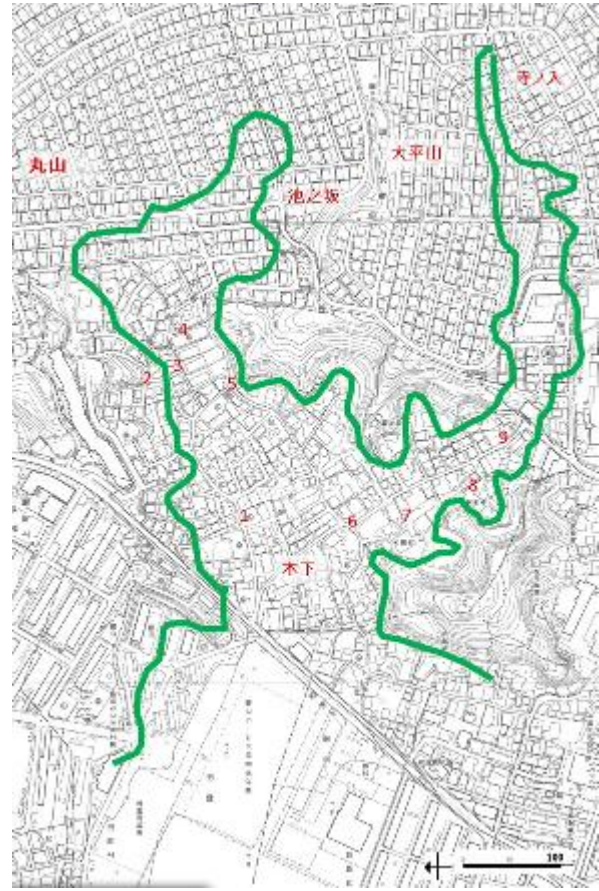
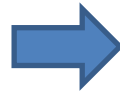
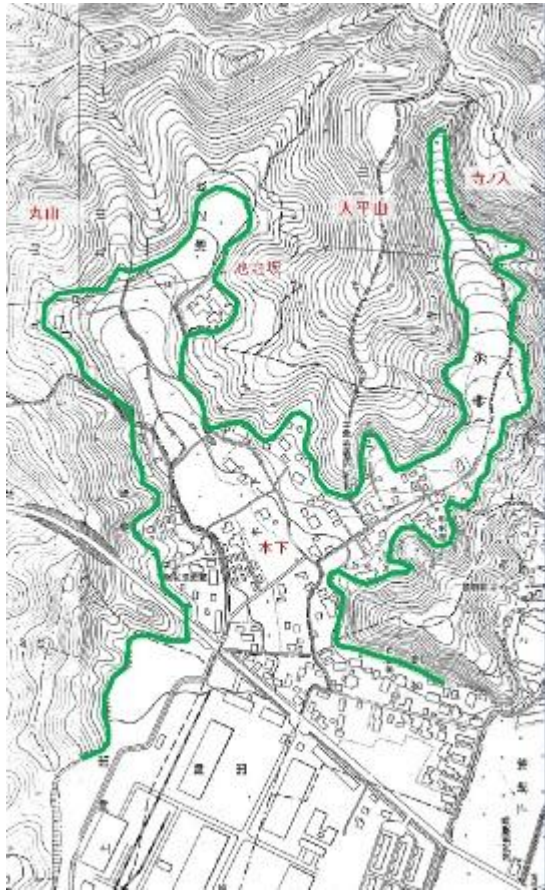
写真左の尾根はなくなっている。
田園は、今は工場



寺分

大慶寺の寺領が名前の
由来

緑地として残されている
部分を除き、宅地開発で
全面的に変貌





わずかに残る谷戸の名残(寺ノ入)



寺分附近
A 仙行寺
B 東光寺
C 大慶寺

攝影昭和51年4月4日
№ 931

梶原・常盤・笛田に共通する特徴



中心となる大きな谷戸から
柏尾川方面に張り出している

梶原





昭和21年2月15日



平成19年4月26日

梶原の特徴

- 梶原川(と新川)流域地帯
- 下流部は柏尾川に近い平野
- 上流部は大きな谷戸とその両側の丘陵地帯
- 谷戸の北側は丘陵地帯であったのが宅地造成で変貌
- 谷戸の南側は常盤山緑地で桔梗山団地を除き保全

梶原川と新川

梶原川



新川

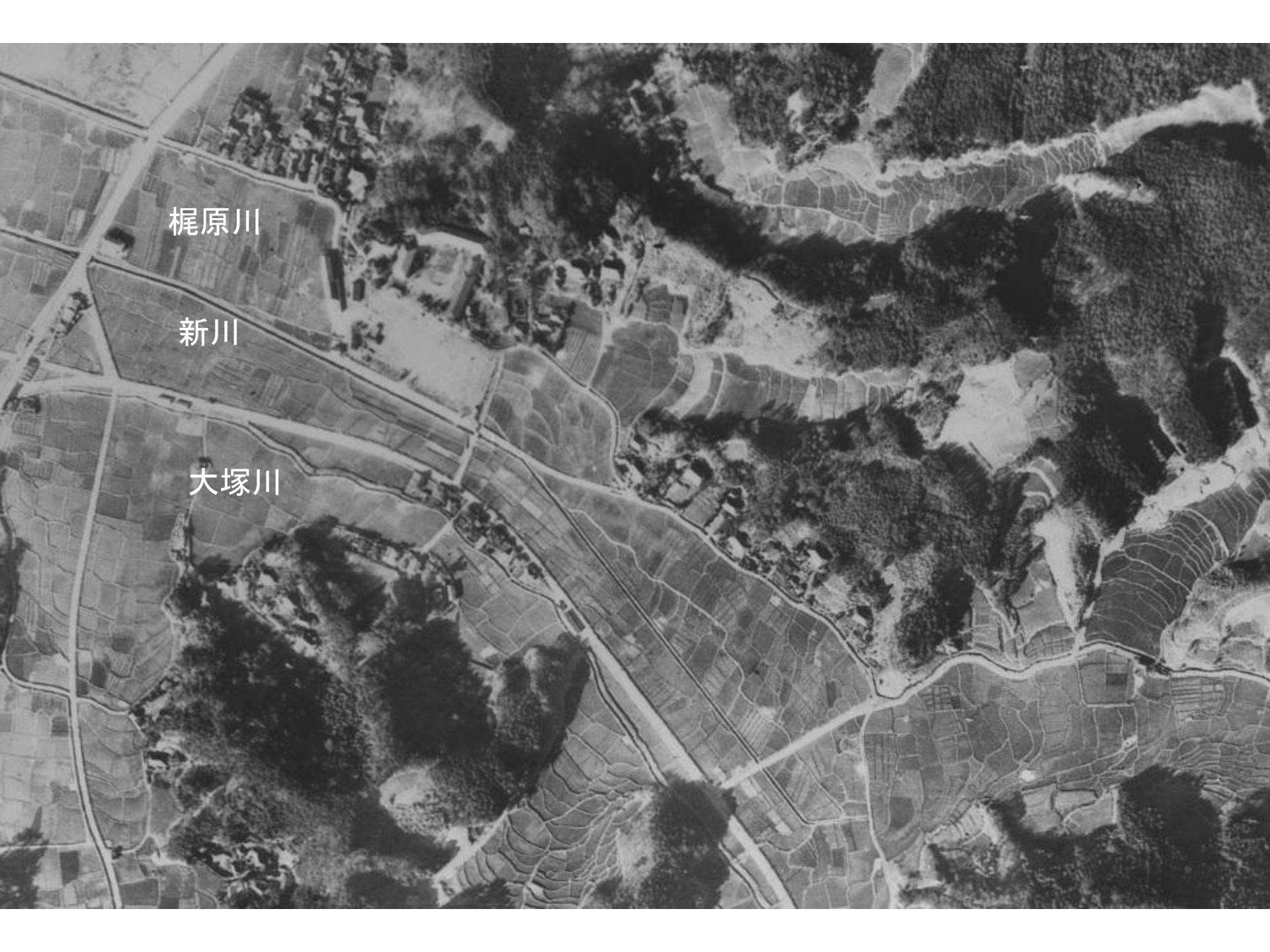
昭和29年当時



現在

梶原川の流れを新川に付け替えた

新川: (柏尾川) 滑川 砂押川 小袋谷川に次ぐ長さ



梶原川

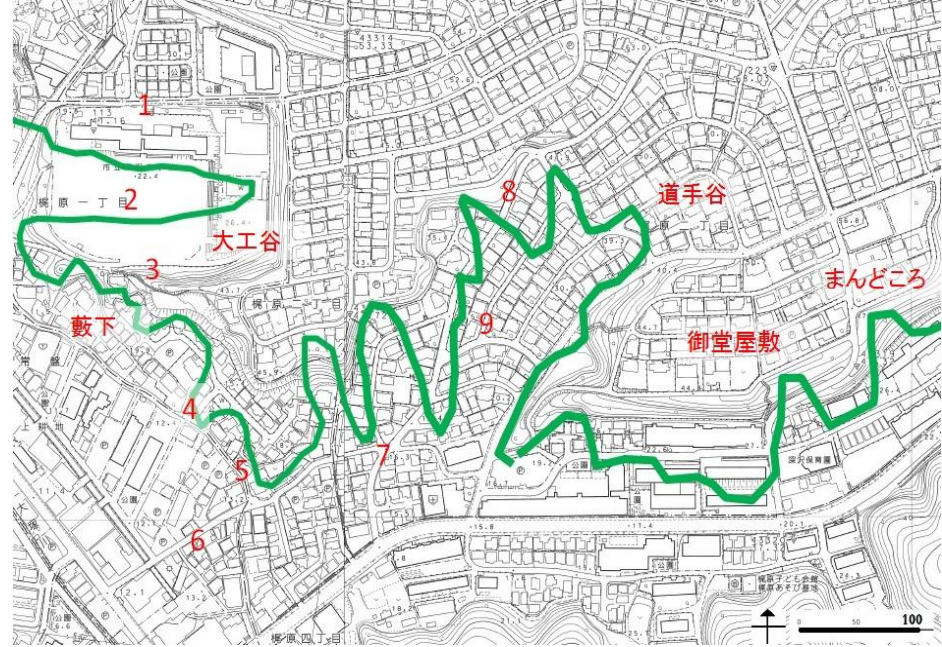
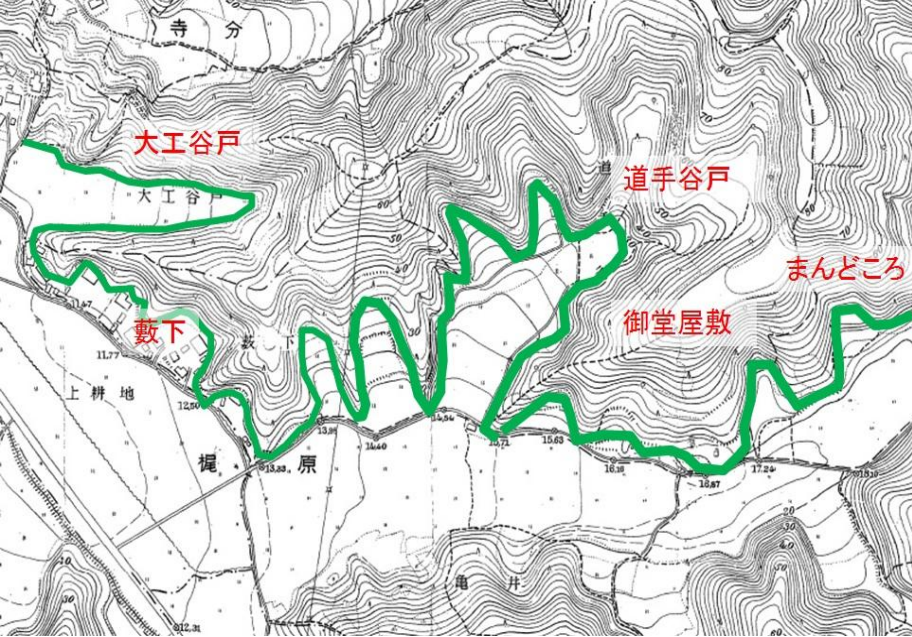
新川

大塚川

インターネットで見つけた梶原川に関する記述

相模貝類同好会会報〈みたまき〉No. 32 (1996)

金子功氏（鎌倉市梶原）によると、東京オリンピック（昭和39年）が開催される数年前に、桔梗山に公団住宅が出来た。当初オリンピックの施設を建設するため立ち退きした人達が代替地として入居されていたが、その後ますます発展し、現在は大きな団地となっている。源氏山（82.2 m）、桔梗山（117.9 m）に源を発する新川は、この団地造成の為に、鈴藤鉄工所（常盤314）より上流は、殆ど暗渠となっているが、此処より下流は、川幅が約3 mもある大きな川に整備されている。一方梶原川も、梶原口ロータリーを少し登った所にあるスーパー「ナイス」付近で、新川から分流しているが、もともところちらの梶原川の方が川幅も広く主流であったが、此の団地の為の下水管、ガス管を通す為に、深沢にある JRのアパート東側より上流は暗渠となった。しかし、子供の頃（昭和30年代初）には、川幅も約2 m、水深も膝上まである水量豊かな小川だったので、直径1 mもある大きな木のたらいに乗ってよく遊んだとのことである。一方川の中には、ハヤ、フナ、ドジョウ、メダカ、ウナギ、アメリカザリガニ、シジミ、カワニナなども沢山いて、夏の夜ともなればホタルが沢山飛び交っていたそうである。（平成2年7月4日）



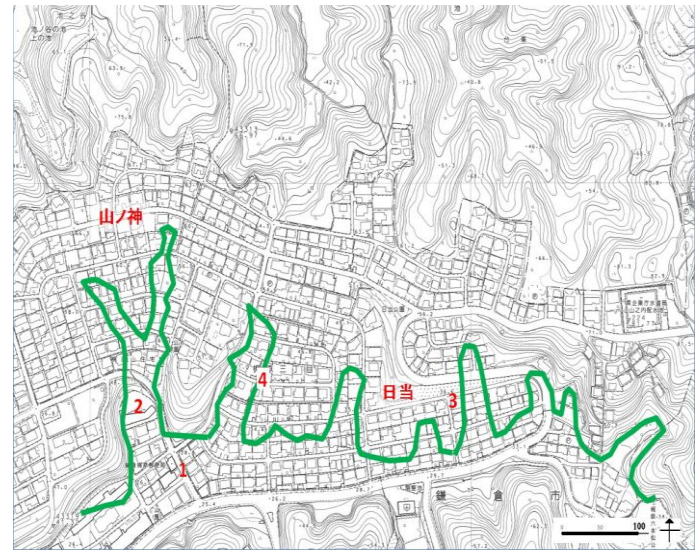
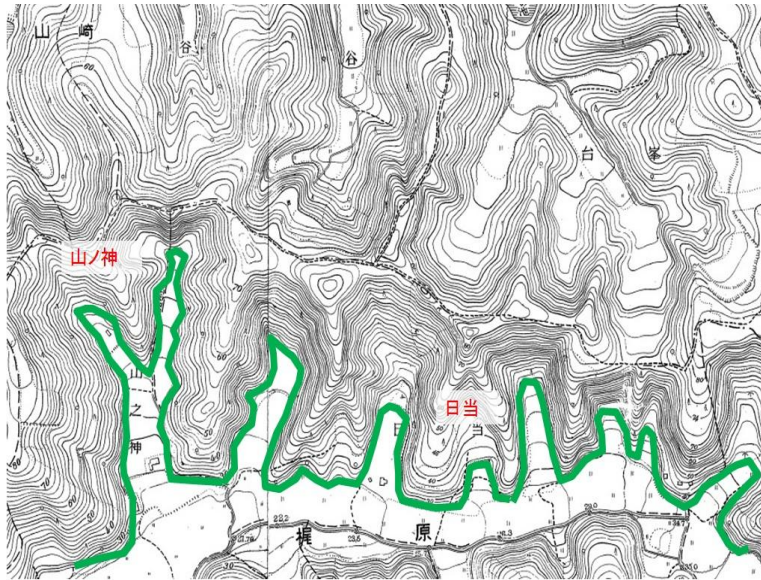
大工谷戸は深沢中学校に
道手谷戸は住宅地に



大工谷戸跡(深沢中学校)



道手谷戸 谷戸の形は残っている。



昭和29年は広い谷間の水田地帯と小さい谷戸がいくつもあったが造成で変形 谷底部分は現在バス道路の幅のみとなっている。



山ノ神



野村橋から梶原北側の造成住宅地を望む

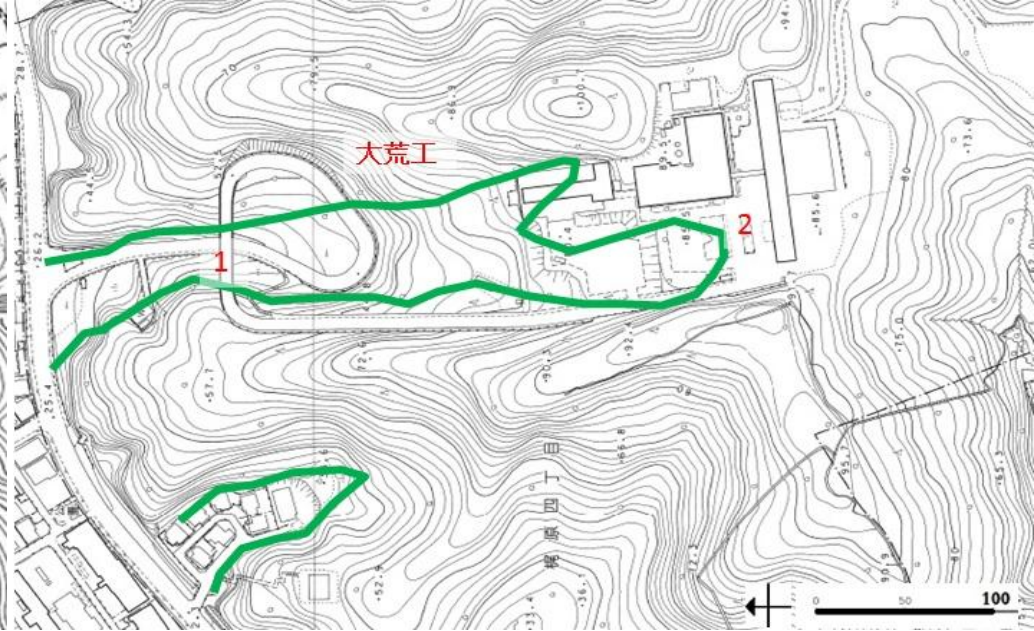
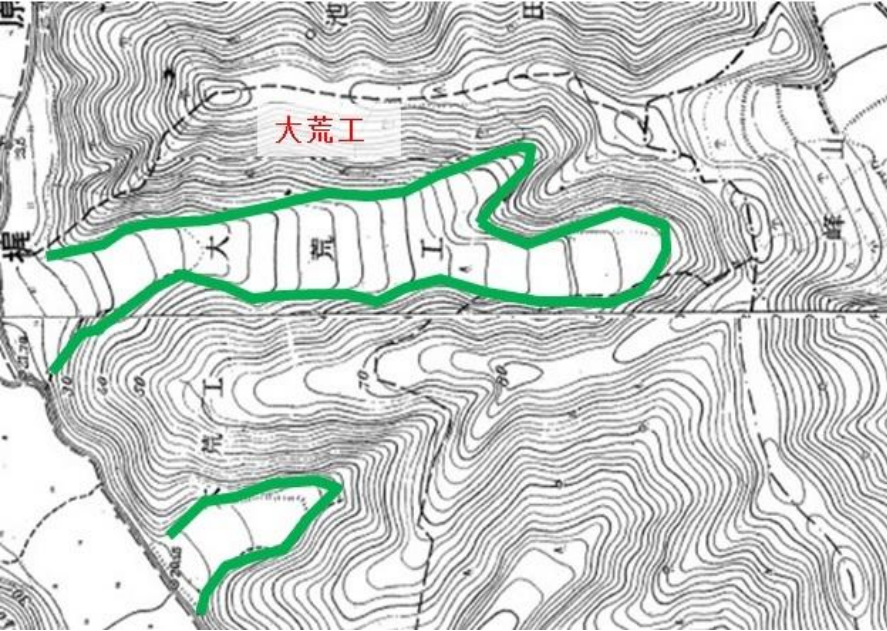


春殿谷 瓜ヶ谷

常盤山緑地が保全されているので変わらず



春殿谷



大荒工→野村総研→散策できる公園→立ち入り禁止



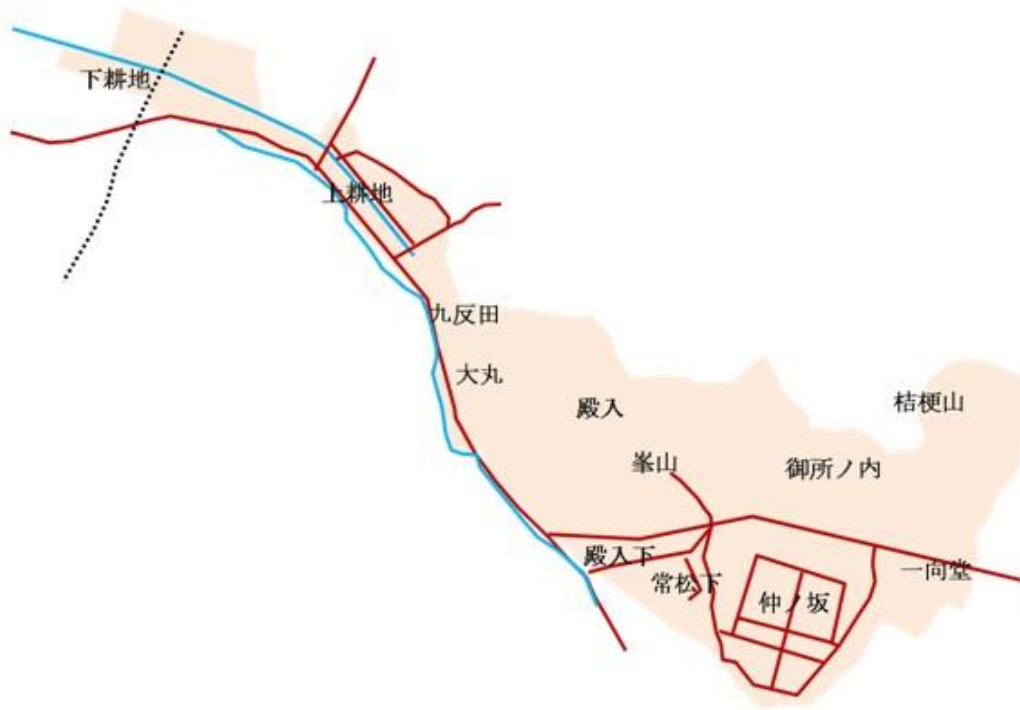


桔梗山団地
二つの谷戸が繋がる

桔梗山の字名はもっと南の常盤地区
本来大久保の筈だが？



常盤



常盤の特徴

- 細長く突き出た大塚川部分を別として、市役所通りを中心とした大きな谷戸と南北の丘陵
- 北側の丘陵は常盤山緑地を中心として保全
- 南側の丘陵地の真ん中は住友の住宅地-常盤の中心の市役所通りからは目立たない



昭和21年2月15日



平成19年4月26日



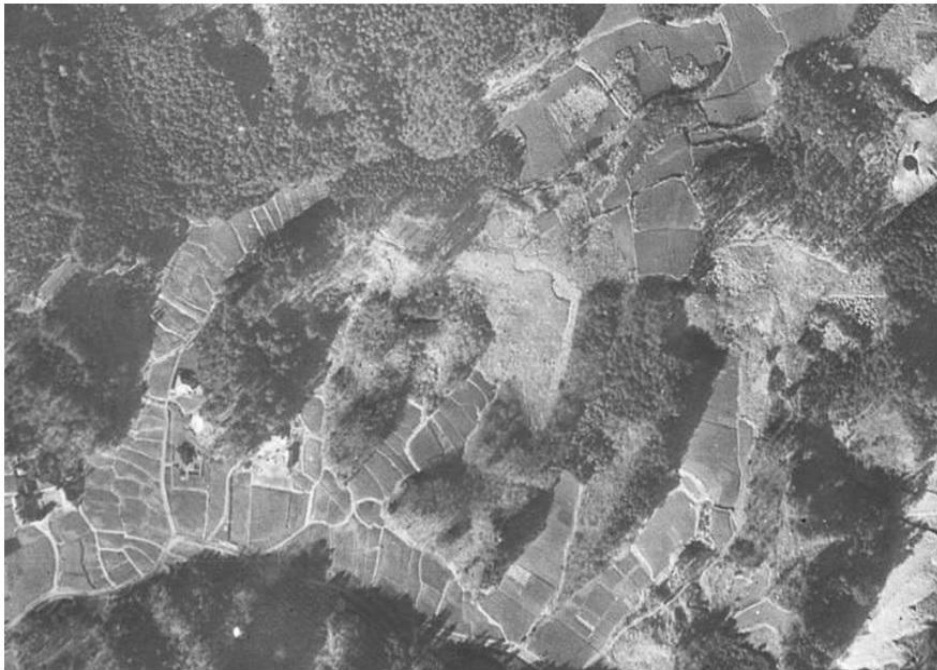
殿入・殿入下・常松下
(常盤の谷戸の入口部分)



常盤山方面

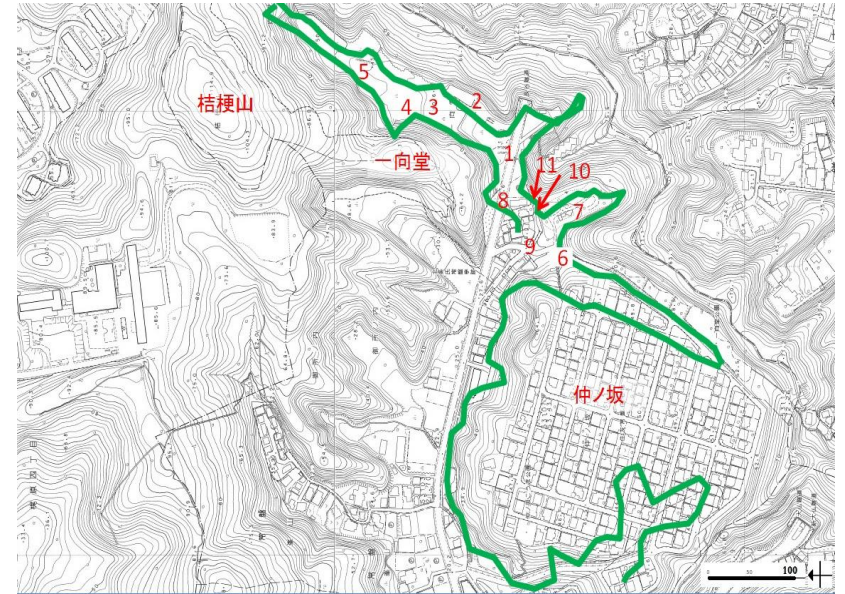
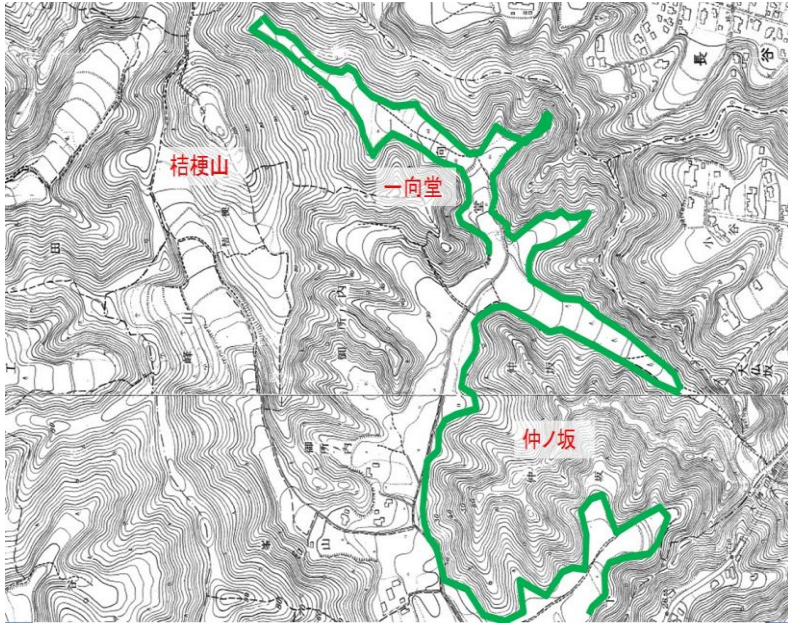


常松下



峯山 御所の内





北側の常盤山は保全(例外は峯山だが谷戸が宅地化しただけ)
南側の仲の坂の丘陵地は住友の住宅地として開発されている。

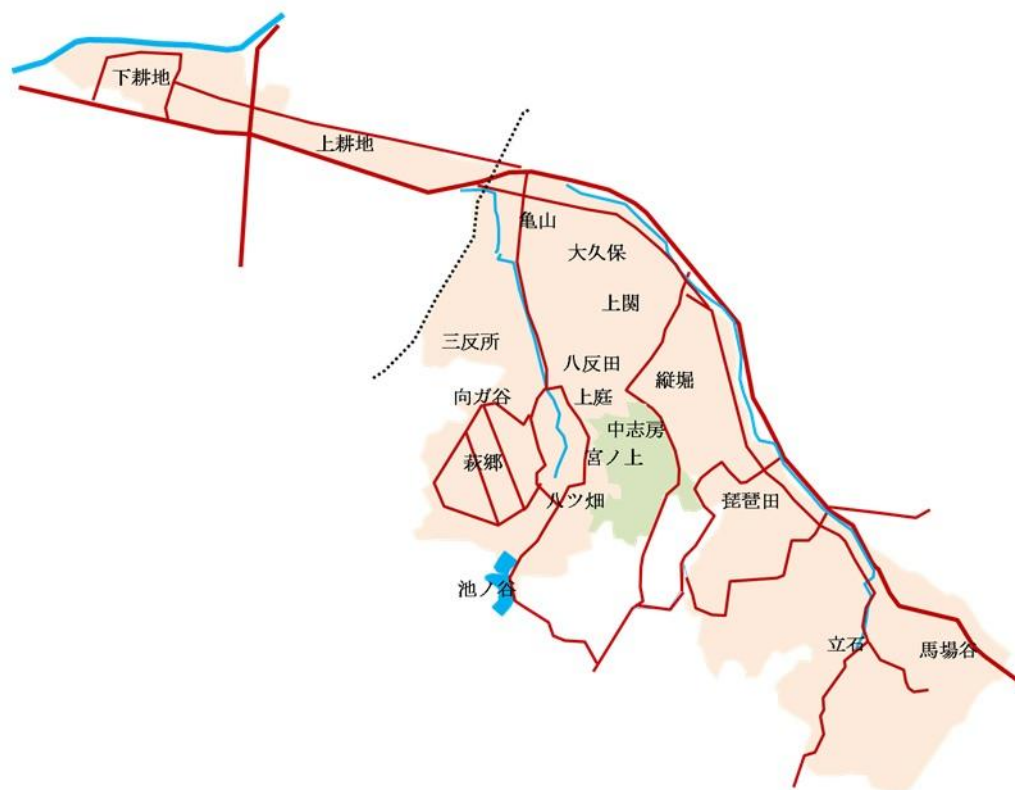


保全されている一向堂の谷戸



宅造中の仲ノ坂住宅地(昭和43年)

笛田

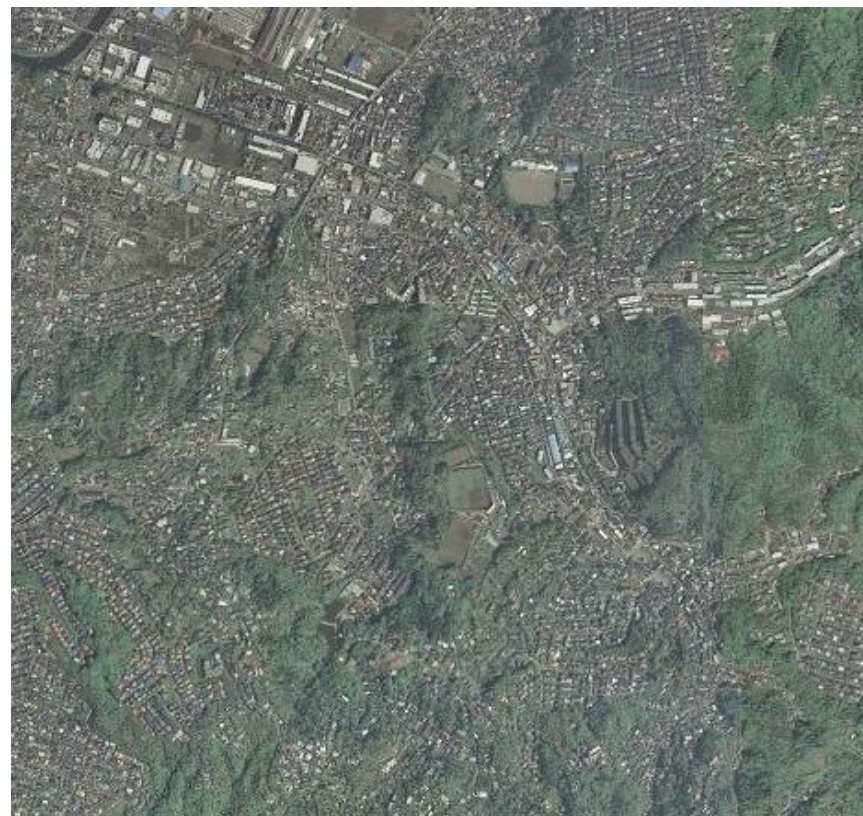


笛田の特徴

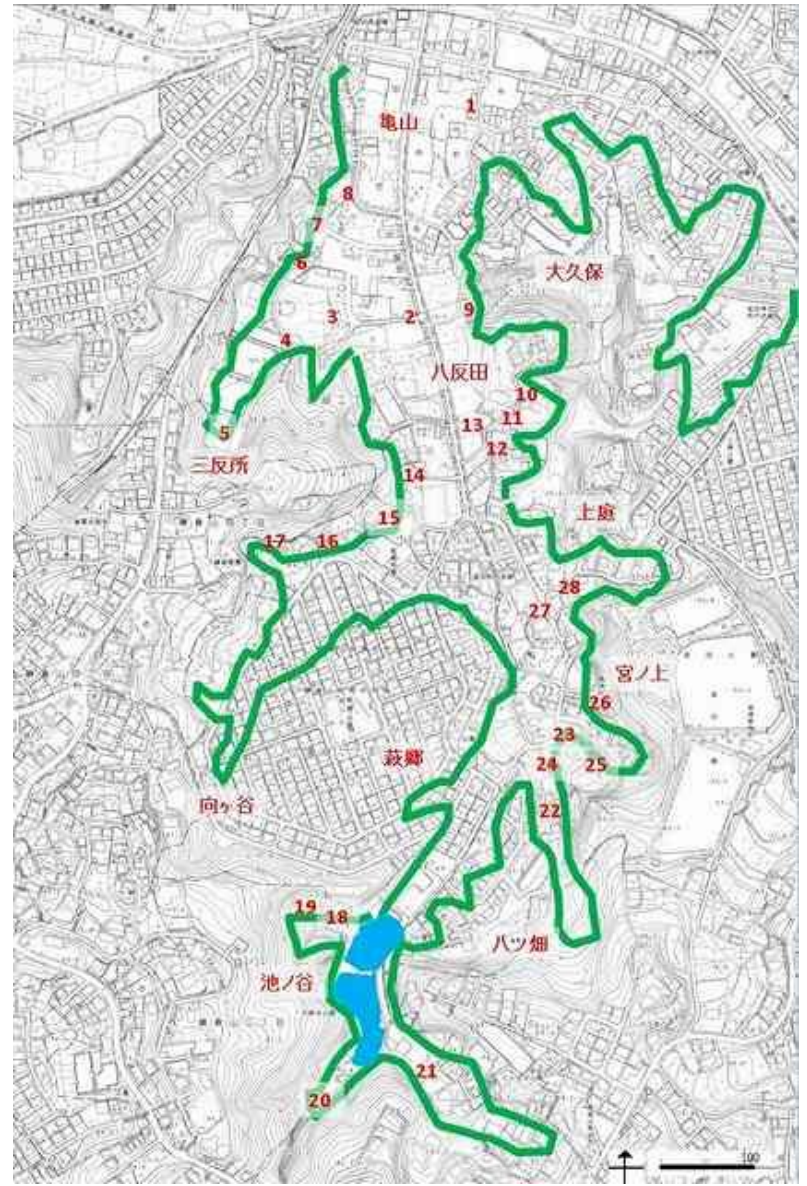
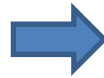
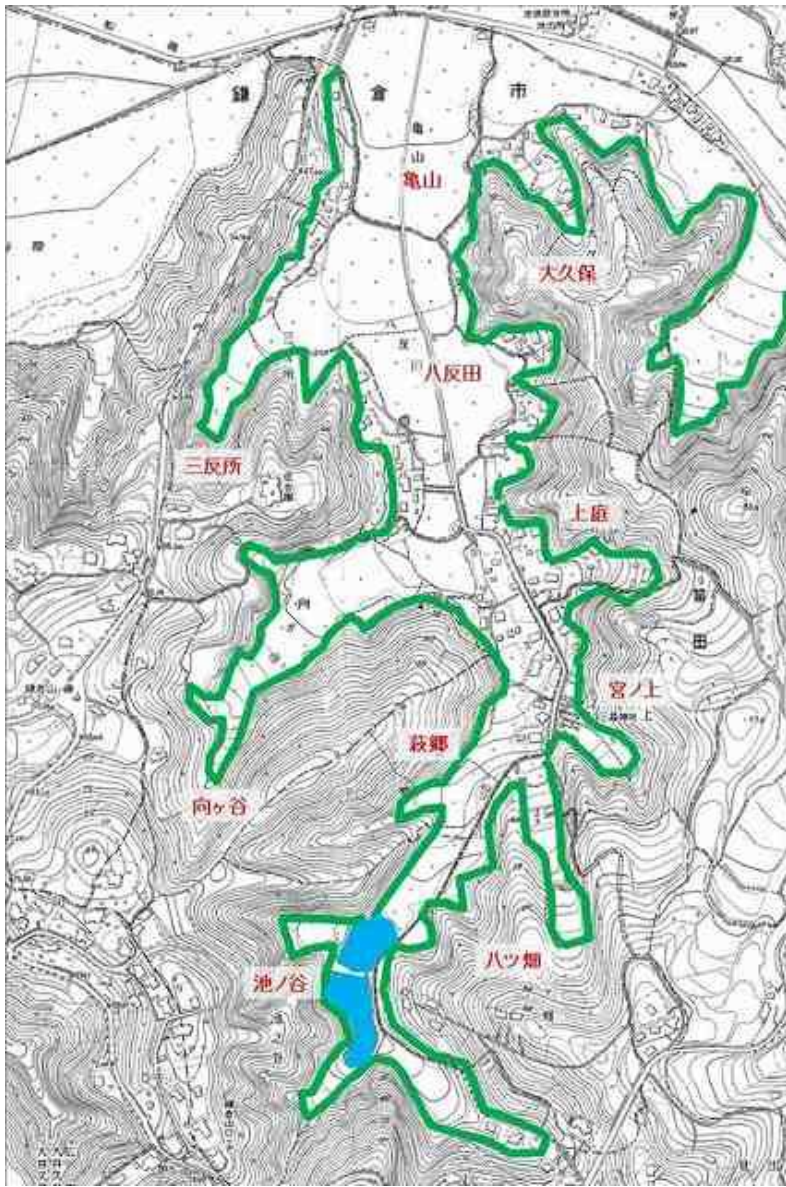
- 笛田川を中心とする谷戸、大塚川左岸、その中間の尾根地帯(笛田公園など)、柏尾川に近い平野部に分かれる。
- 笛田川の谷戸では市内では関谷、手広に次ぐ農地が残されている。
- 笛田川の谷戸の奥の萩郷、大塚川左岸で宅地造成
- 中央では笛田公園が整備
- 大塚川源流地域は宅地化は進んでいるが谷戸の雰囲気は残っている。



昭和21年2月15日



平成19年4月26日



昭和29年

平成26年

笛田川を中心とする谷戸



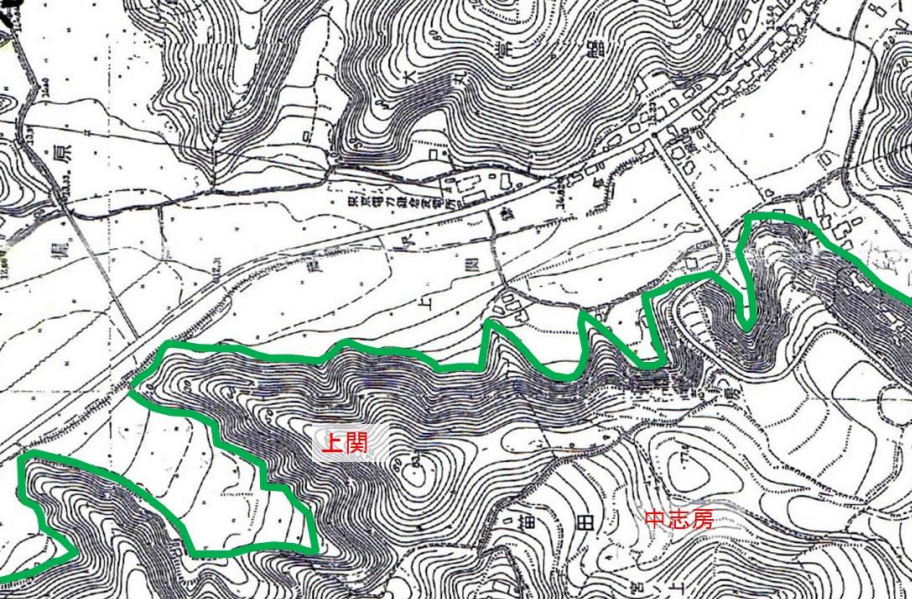
笛田に残る水田



萩郷完造地 笛田から写す 撮影 昭和57年2月1日

矢印A附近が婦夫が池

№900



上関・中志房



深沢クリーンセンター





笛田公園

笛田宅造地にて

撮影昭和57年2月1日

№900





墓のあるところは造成の対象外



宅造中の縦堀(現笛田4丁目)

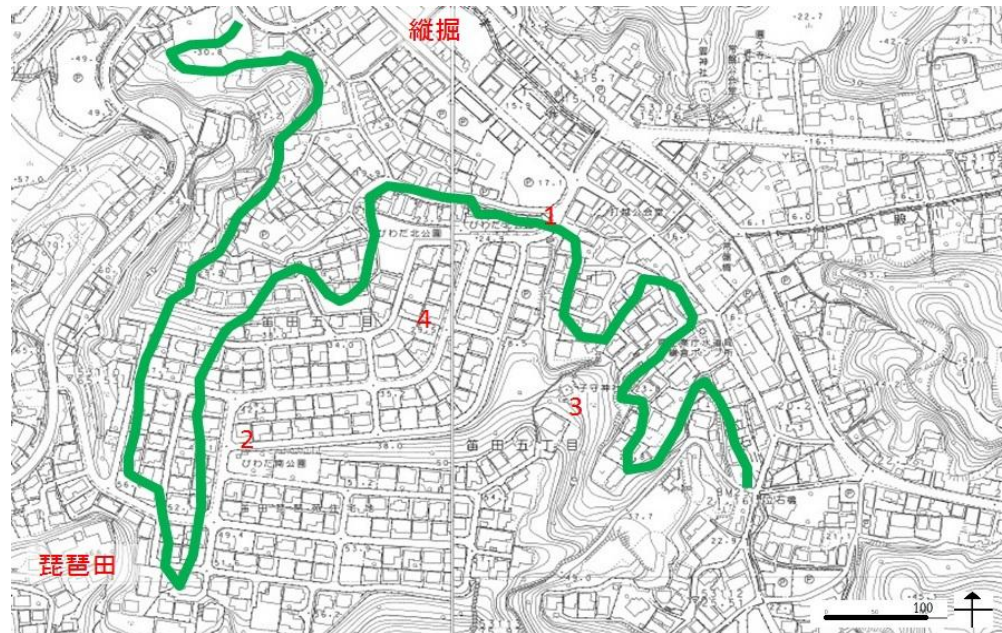
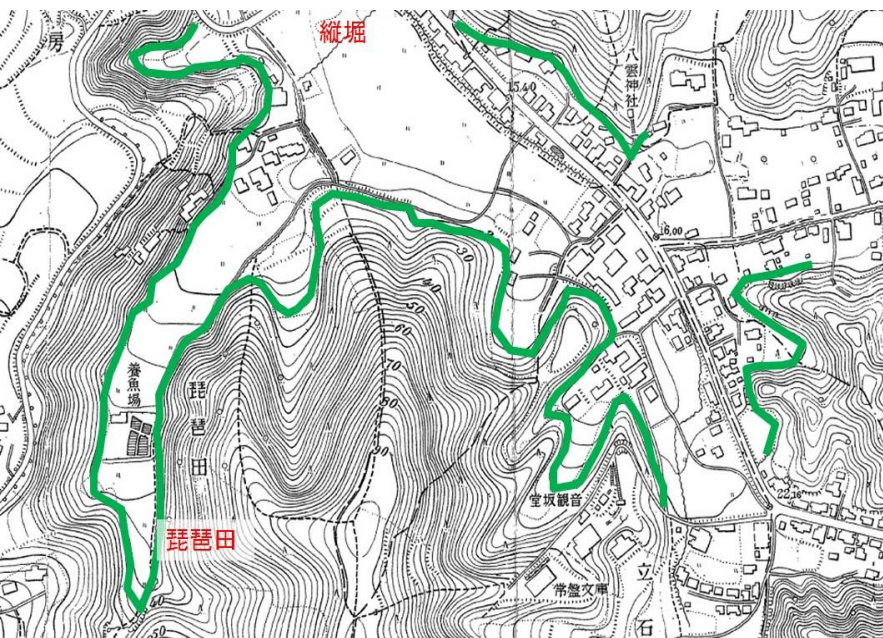
昭和43年12月



逆方向から 遠くに梶原の住宅地 昭和43年12月
この墓も最終的には撤去された



昭和42年6月の縦堀地区宅造中の空中氏写真

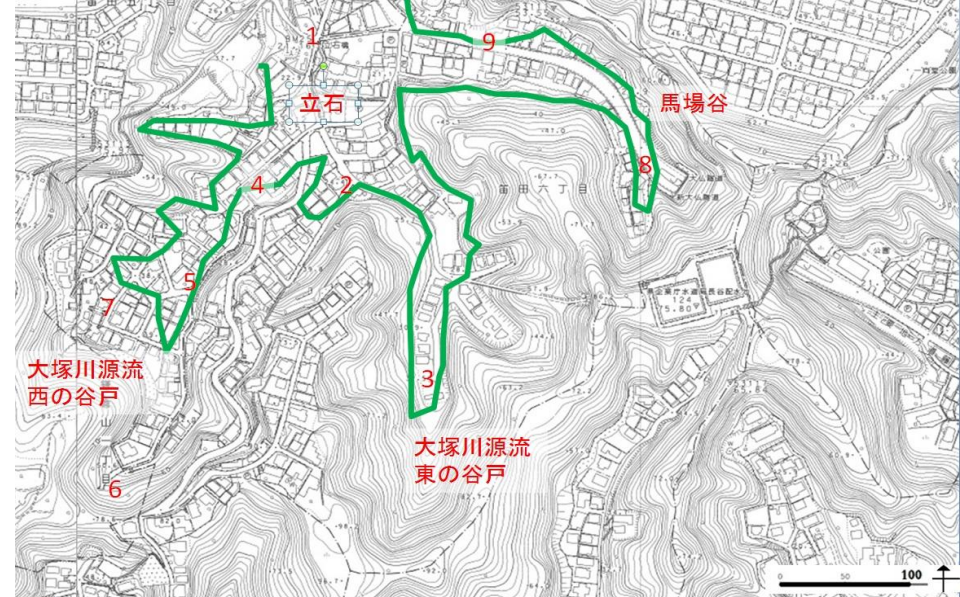


琵琶田 周辺の丘陵もふくめて宅地化



琵琶園の宅造地

ときわロから入つて鎌倉ふえの
途中少し左側方向



立石 馬場谷 大塚川源流地域で住宅地が広がっている。





大塚川源流の谷戸



通称お化けトンネルで極楽寺と結ぶ

手広



手広の特徴

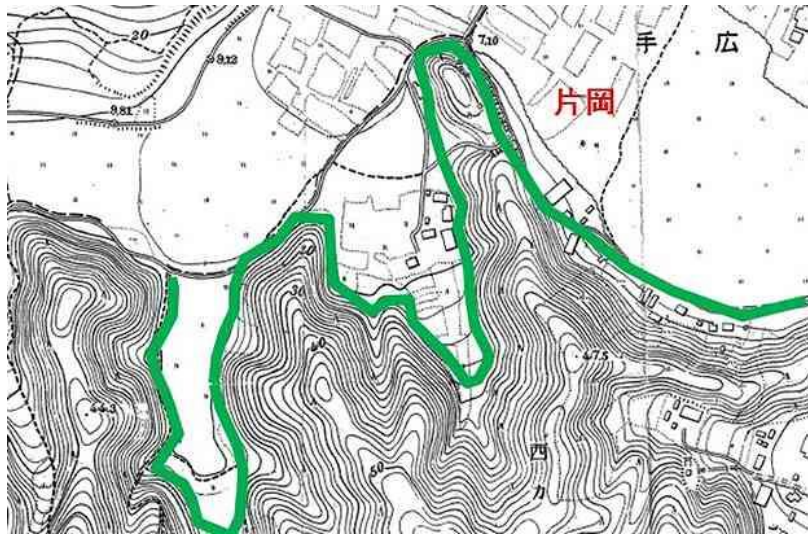
- 平野部が大きな面積を占める。
- 農村地帯から宅地化。それでもかなりの部分
に農地が残る。(関谷に次ぐ農業地帯)
- 西部に東レ研究所の丘陵地帯
- 南部に丘陵地帯((戦場)峯)と麓の谷戸(西ヶ
谷:手広の本村) 南部の尾根も宅地化が進
む
- 東部境の尾根にモノレール その麓に造成住
宅地(谷際)



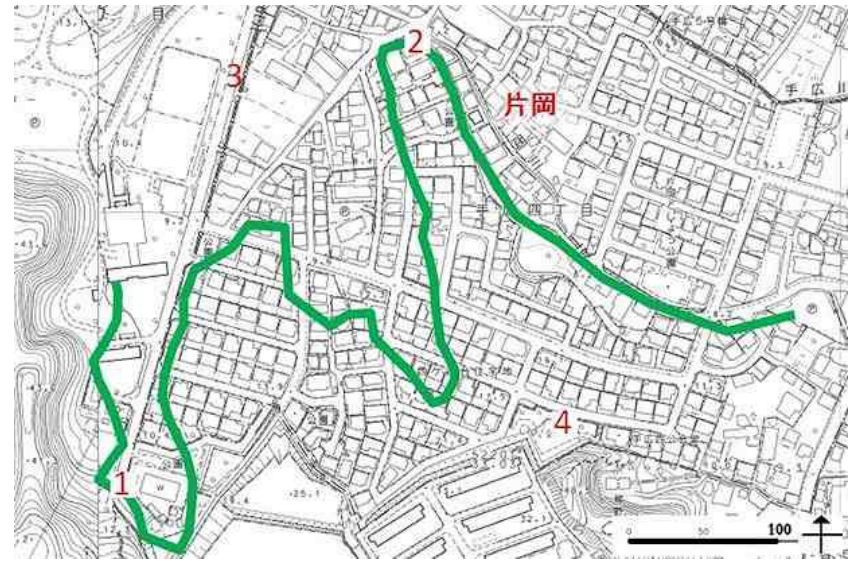
昭和21年2月15日



平成19年4月26日



昭和29年

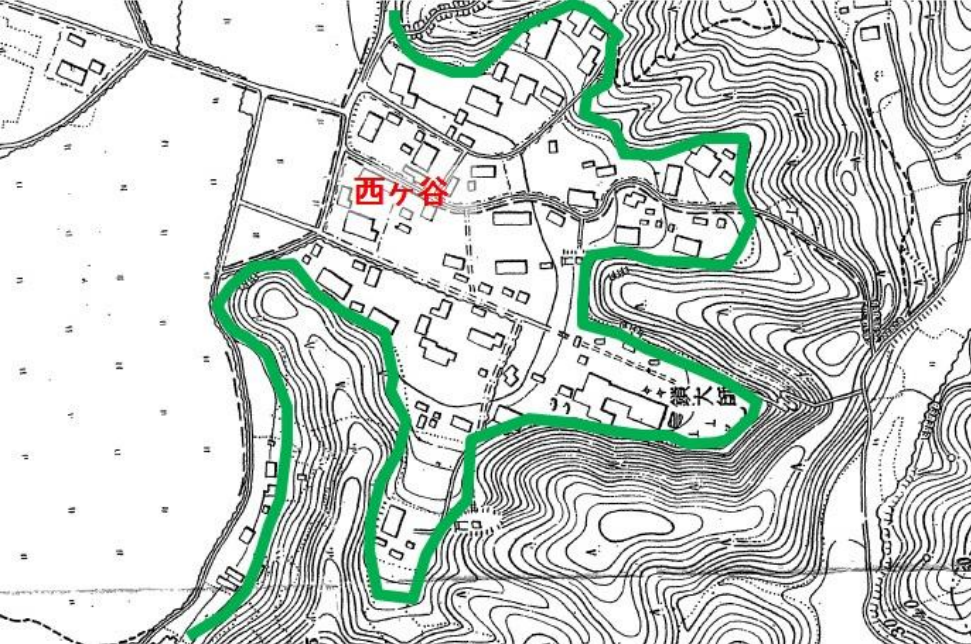


平成26年

南部片岡で宅地化が進んだ例



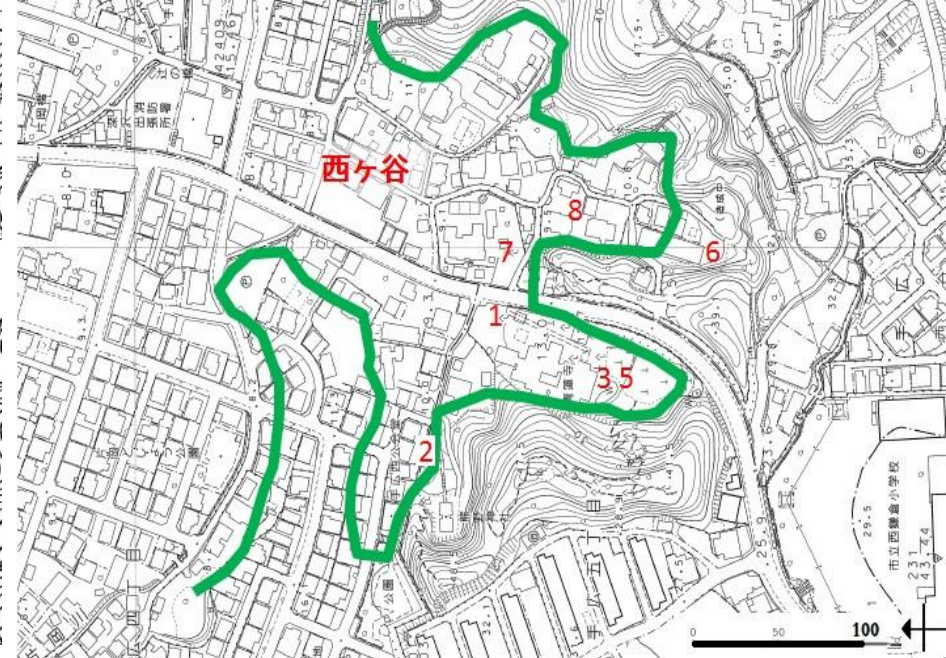
片岡の尾根の突端部の名残



昭和29年

西ヶ谷

手広の本村
農村の雰囲気を残している。



平成26年



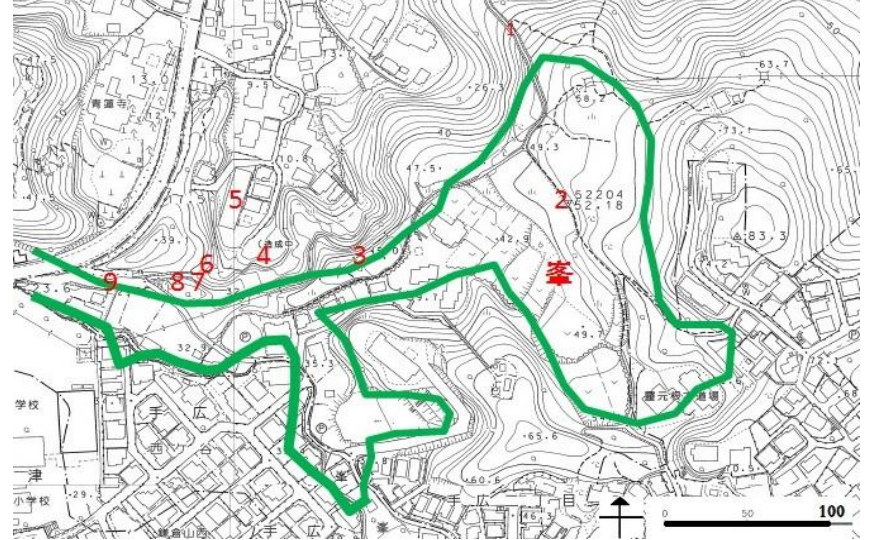
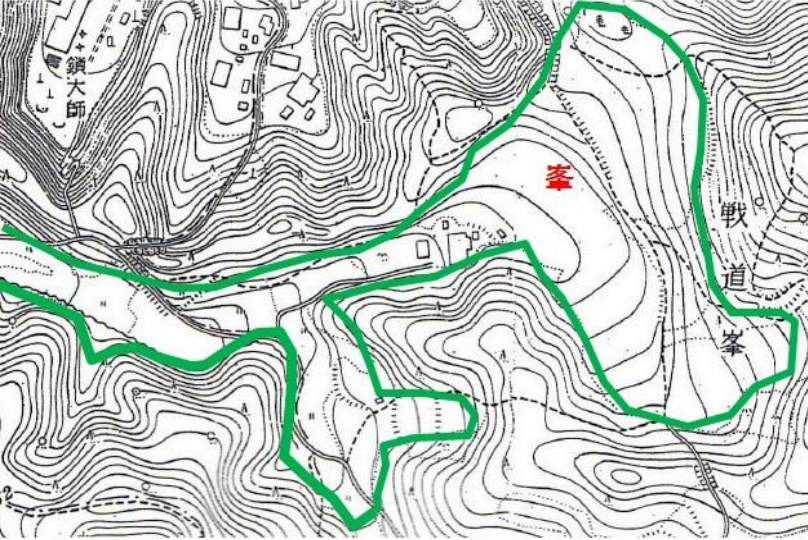
昭和21年
手広 太谷



平成16年



手広 大谷の古写真と
現在

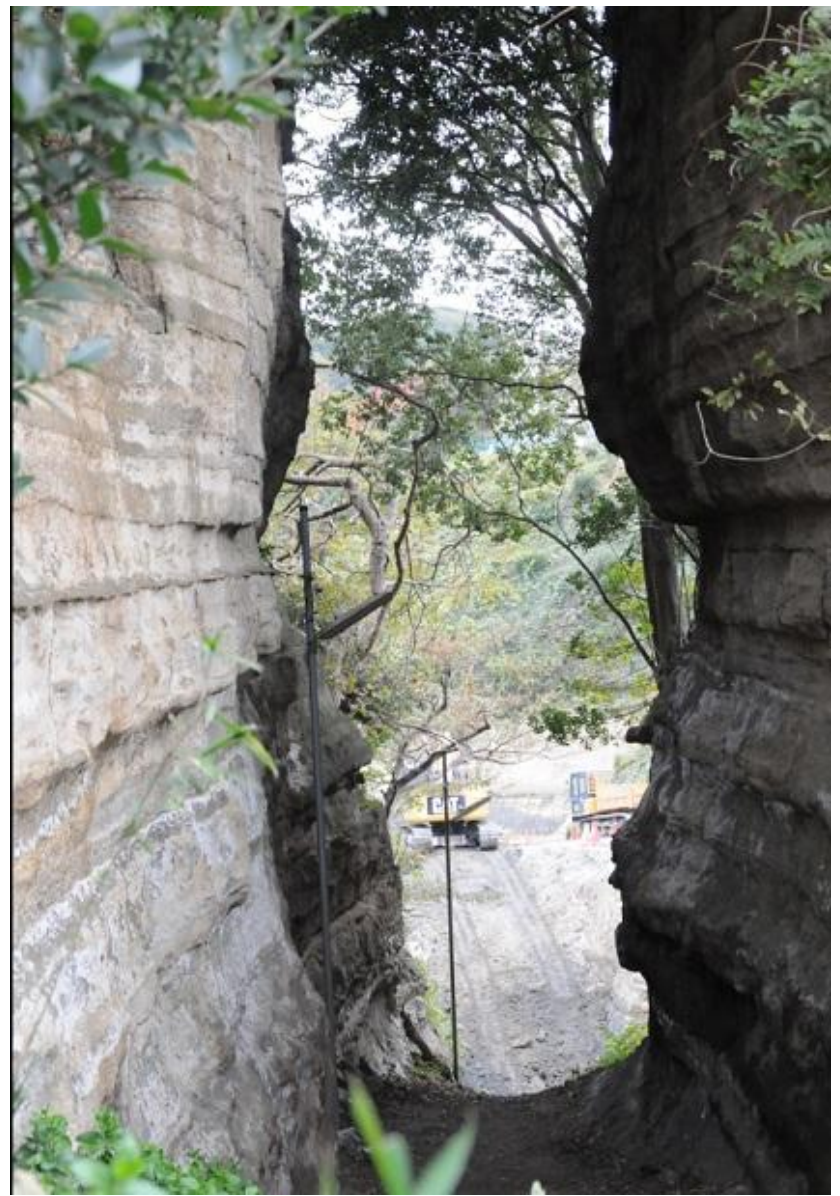


(戦道)峯

手広地区に属するが地勢的には腰越津(神戸川流域)

まだ山里の雰囲気が残っている





宅造で明るくなってしまった谷戸坂の切通



笹田 八反目 谷際

平野部の農地は宅地化

農地が多く残る

谷際は造成された宅地

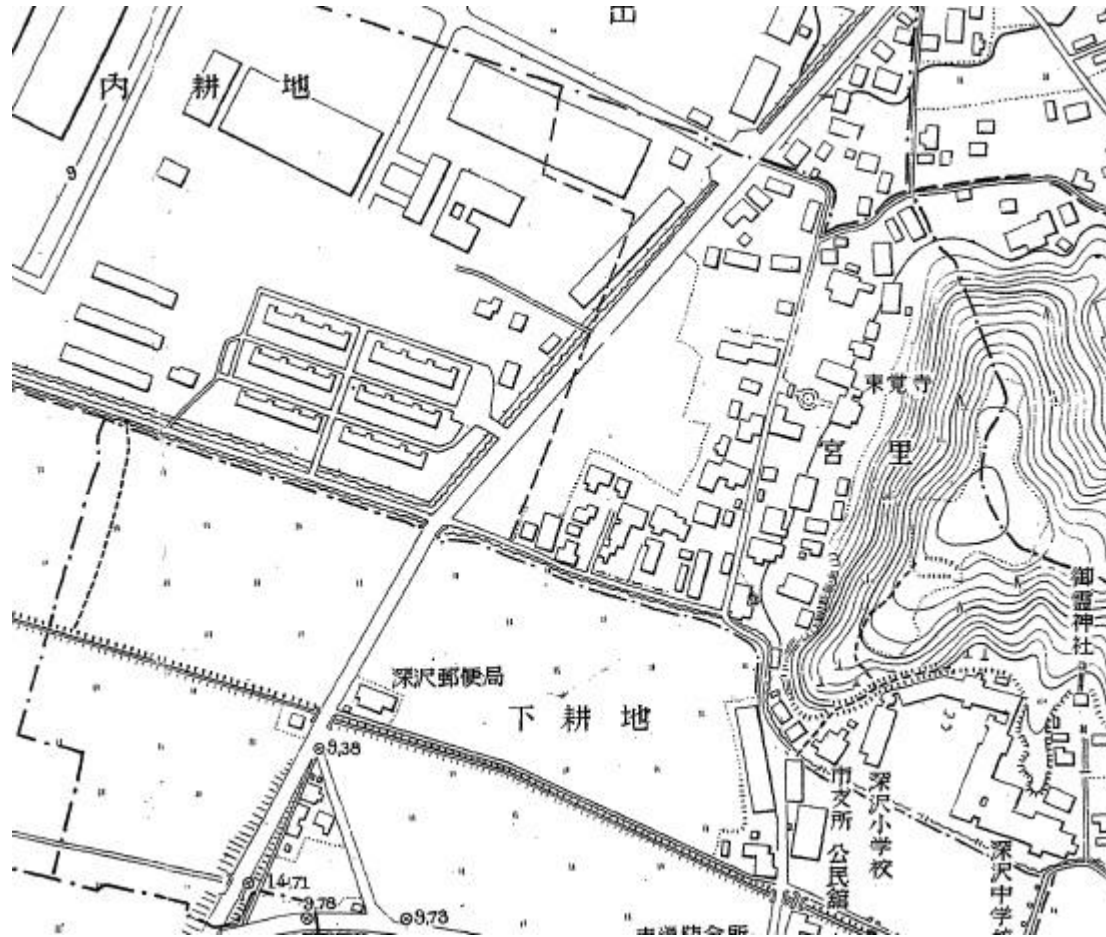


手広の緑地 モノレール下は谷際の住宅地

腰越・津・津西・西鎌 倉・七里ガ浜・東七里 ガ浜・鎌倉山について

これらの地区は元々、腰越・津 地区
(鎌倉山は一部笛田)

昭和29年 鎌倉の地図の一般的な場所の表示(深沢付近)



小字の位置と境界がだいたいわかる。

腰越・津地区の小字名 表記例



コは腰越の字名
ツは津の字名

腰越と津の字が狭い地域で
複雑に入り組んでいて
明確に分離して表示するこ
とが困難であったと推定

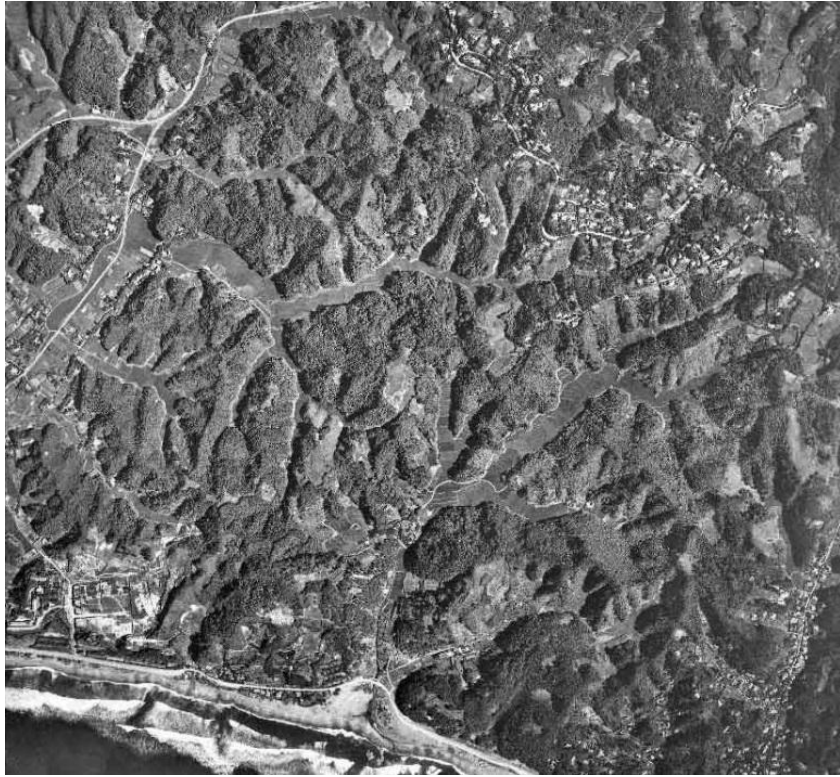
従って、腰越・津は一体化して記述

小字を示すのは断念

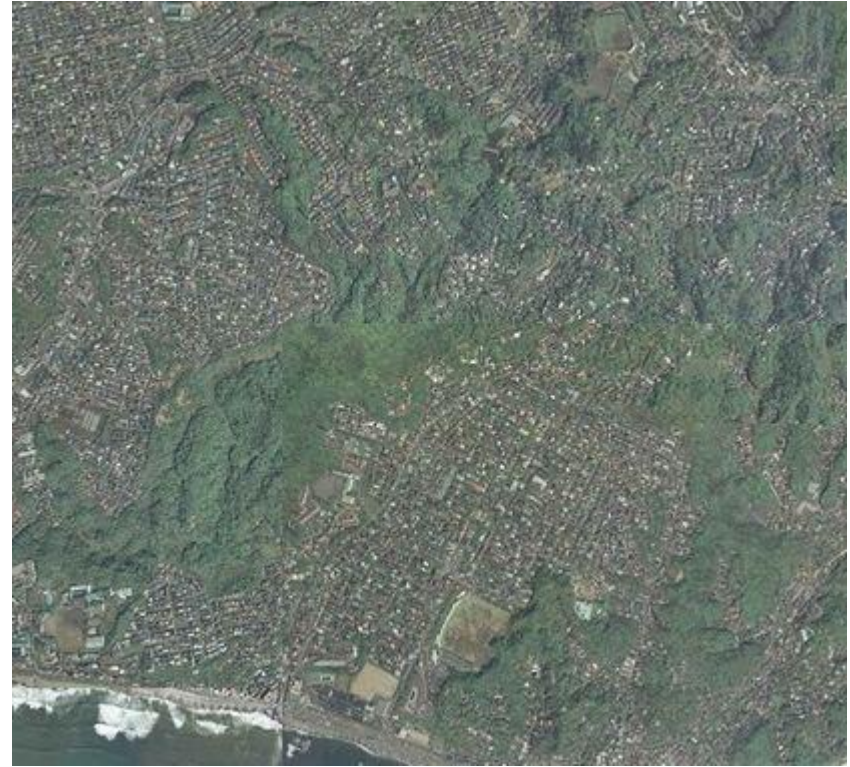
ただし、領域は広いので、七里ガ浜・東七里ガ浜・鎌倉山と
腰越・津・津西・西鎌倉 と分ける。

七里ガ浜 東七里ガ浜 鎌倉山





昭和21年2月15日



平成19年4月26日

鎌倉山

尾根の街

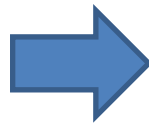
景観の変化はあまりなし

七里ガ浜・東七里ガ浜

行合川流域の丘陵地帯



宅地造成された大住宅地帯



(東)七里ガ浜の台住宅地のなかでの谷戸の名残



昭和42年6月1日の空撮写真

柴崎牧場があった
谷戸は開発からの
取り残されている。



平成26年



昭和47年の柴崎牧場付近



柴崎牧場のあった谷戸の奥



浄化センターから見た椀田谷方向
(昔の谷戸より奥)

腰越 津 津西 西鎌倉



腰越・津・津西・西鎌倉の特徴

(概略・細部は例外あり)

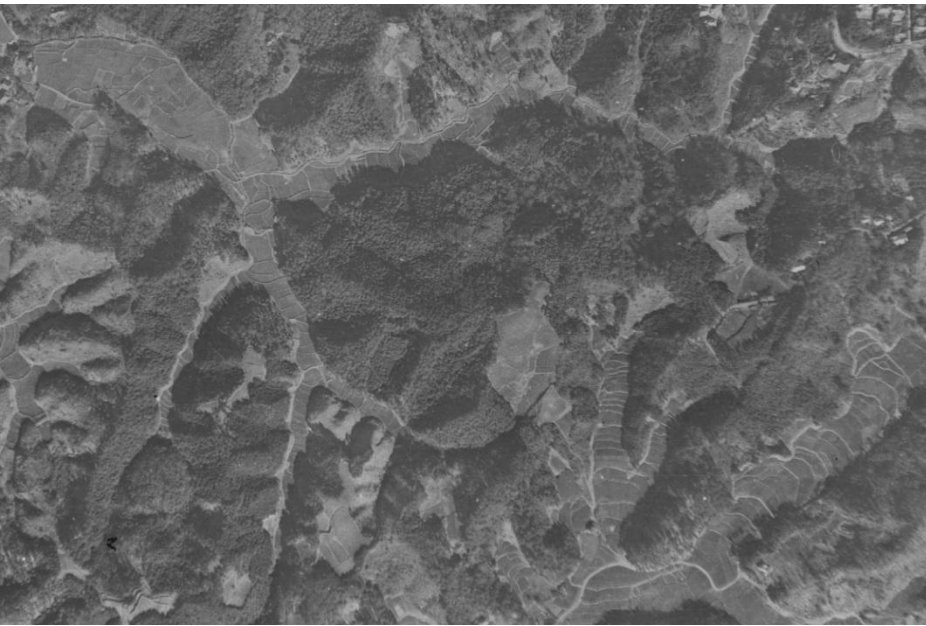
- 腰越・津東部
 - 広町緑地として保全
- 腰越・津 神戸川左岸
 - いくつかの谷戸→宅地造成住宅地
- 腰越・津 南部
 - 腰越市街地
- 津西西部
 - 丘陵地帯→造成宅地
- 津西東部(神戸川右岸)
 - 谷戸が残っている。
- 西鎌倉
 - 丘陵地帯→造成宅地



昭和21年2月15日



平成19年4月26日



昭和22年



平成19年

広町周辺

広町の緑地帯として残る



御所ヶ谷の畑



神戸川左岸(丹後ヶ谷 室ヶ谷 日坂等)
室ヶ谷を除き宅地造成されている。



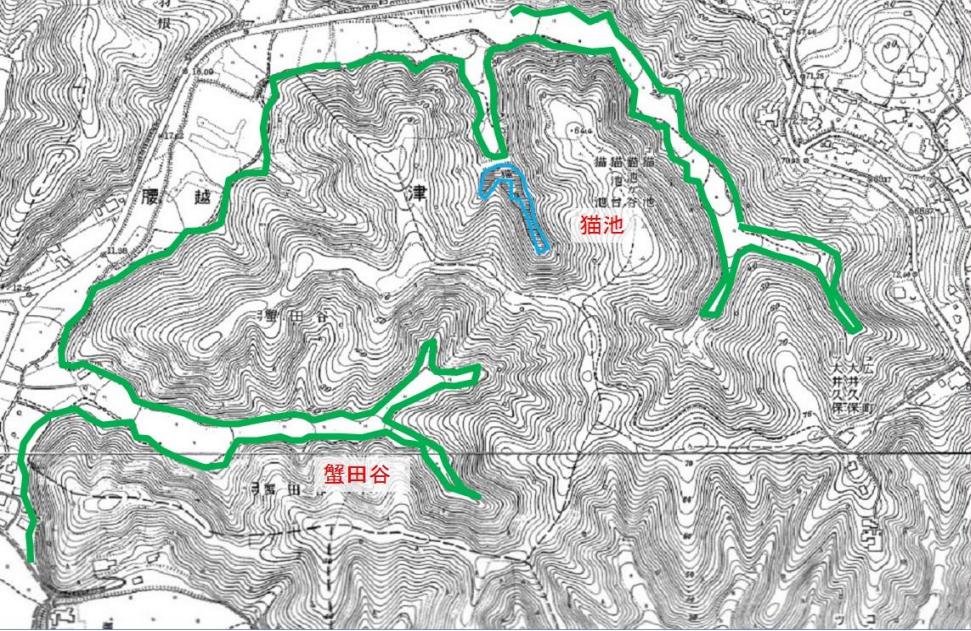
元丹後ヶ谷(現御所ガ丘)の住宅地
農地がある部分が昔の谷戸の部分



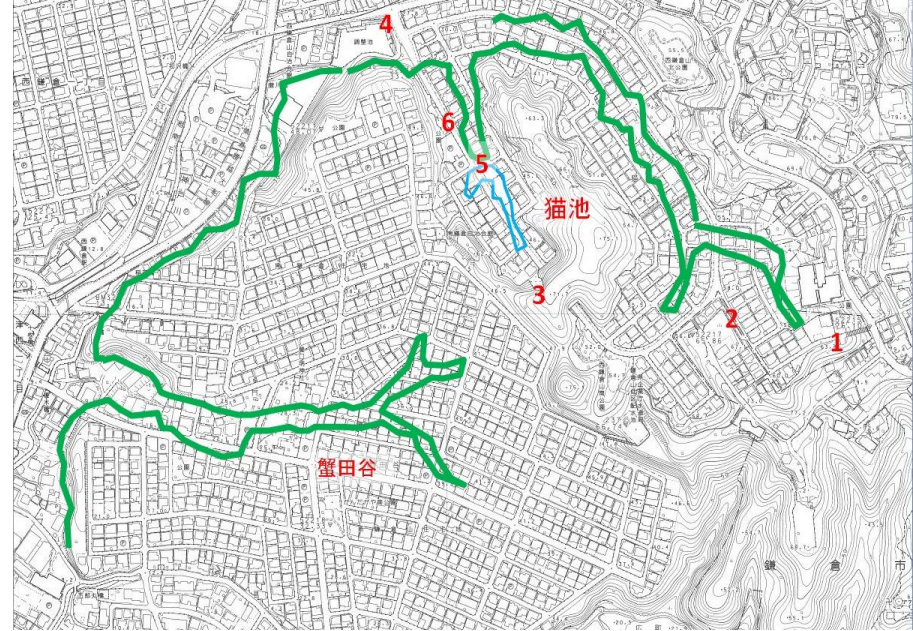
室ヶ谷



日坂西の谷戸(名称 未確認)



昭和29年



平成26年

猫池 蟹田谷

ほぼ宅地化

猫池には谷戸の雰囲気が多少残る



猫池 昭和48年4月



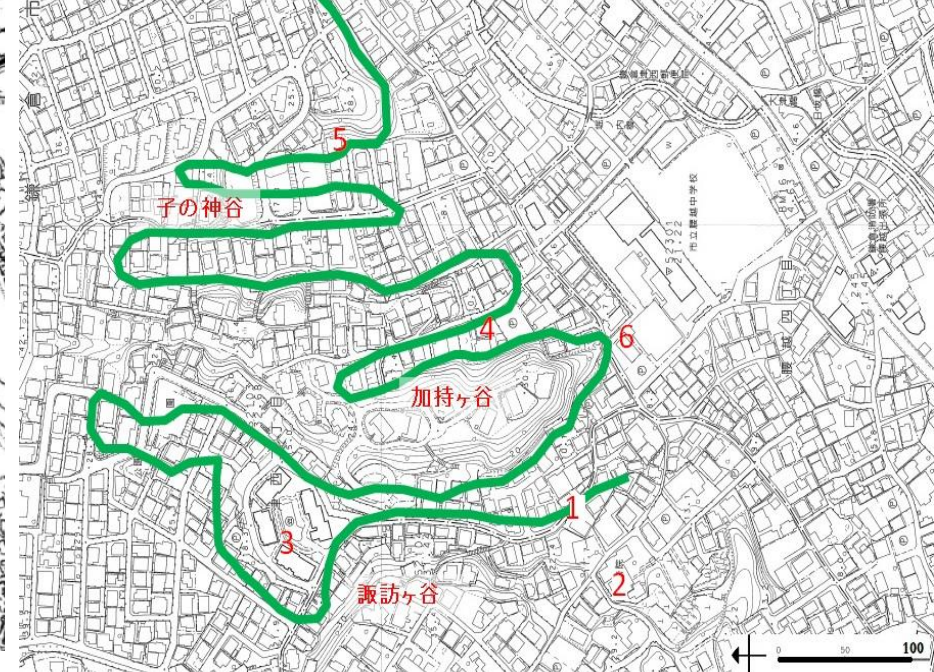
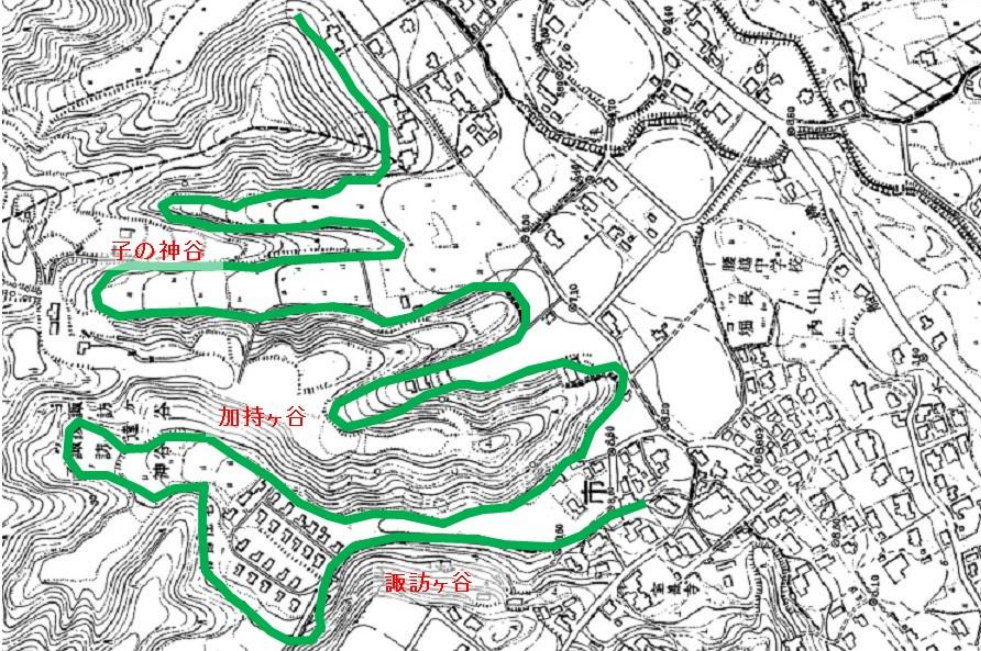
現在の猫池方面



猫池から



現在の猫池方面から モノレールの高さに留意



昭和29年↑ 昭和22年↓

平成26年↑ 平成19年↓



諏訪ヶ谷 加持ヶ谷 子の神谷



加持ヶ谷



子の神谷



昭和29年↑昭和21年↓



平成26年↑平成19年↓



御嶽谷戸 神明谷戸






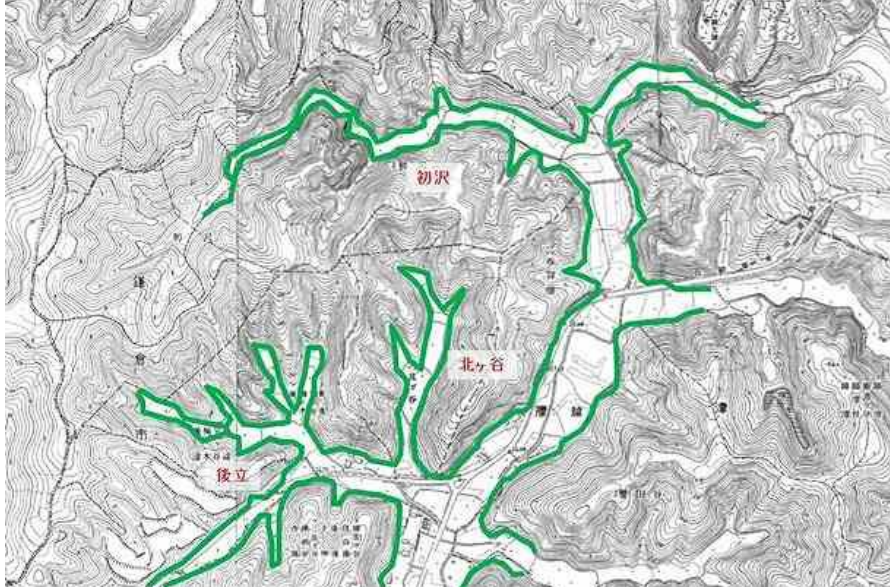
御嶽ヶ谷戸



御嶽ヶ谷戸

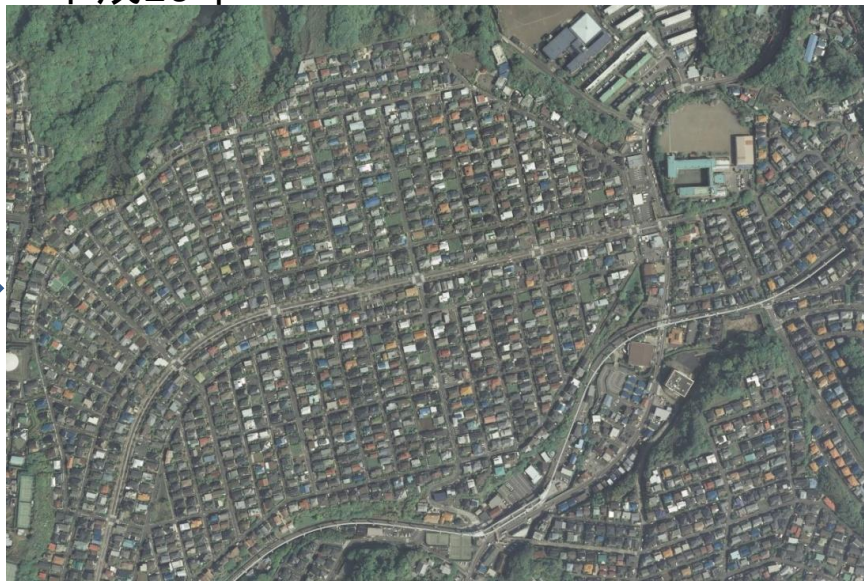
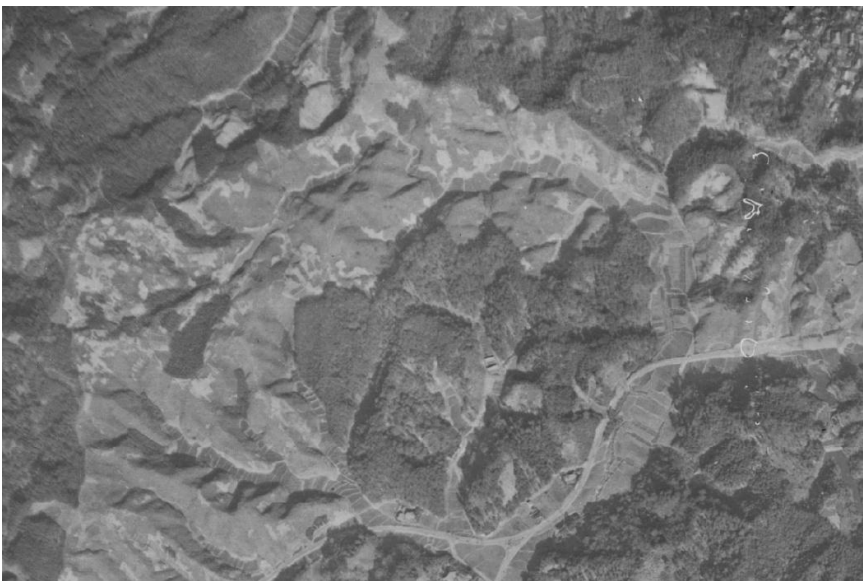


神明ヶ谷戸
現在 腰越なごやかセンター



昭和29年

平成26年



昭和21年

西鎌倉

平成19年

谷戸調査しての所感 (大船玉縄含む)

宅地造成による谷戸 の消滅

鈴木正一郎氏撮影時は宅地造
成の最盛期

怒りのコメント



今泉浸水の定造地
鎌倉壊滅の様相

撮影昭和47年3月19日

№ 508



美しい自然の山も真二つ

撮影昭和48年4月8日

建設と破壊

№612-25



自然の山もコンクリートで撮影昭和48年4月8日
かためられて見るかげも無い
西鎌倉猫池向側 Aの下を湘南モルラーが走っている
B西鎌倉駅

№ 615

鎌倉郊外は大変貌

今、住んでいるところが「台」「丘」でも、本当は「谷」「沢」だったかもしれない

例 今泉台 御所ガ丘

郊外宅地が不人気となり空き家が増えてきた今でも宅地造成は続いている。

(調査時 手広 城廻で出くわした)

一旦宅地化したものは元には戻せない



手広



城廻

山中の畑の自然回帰



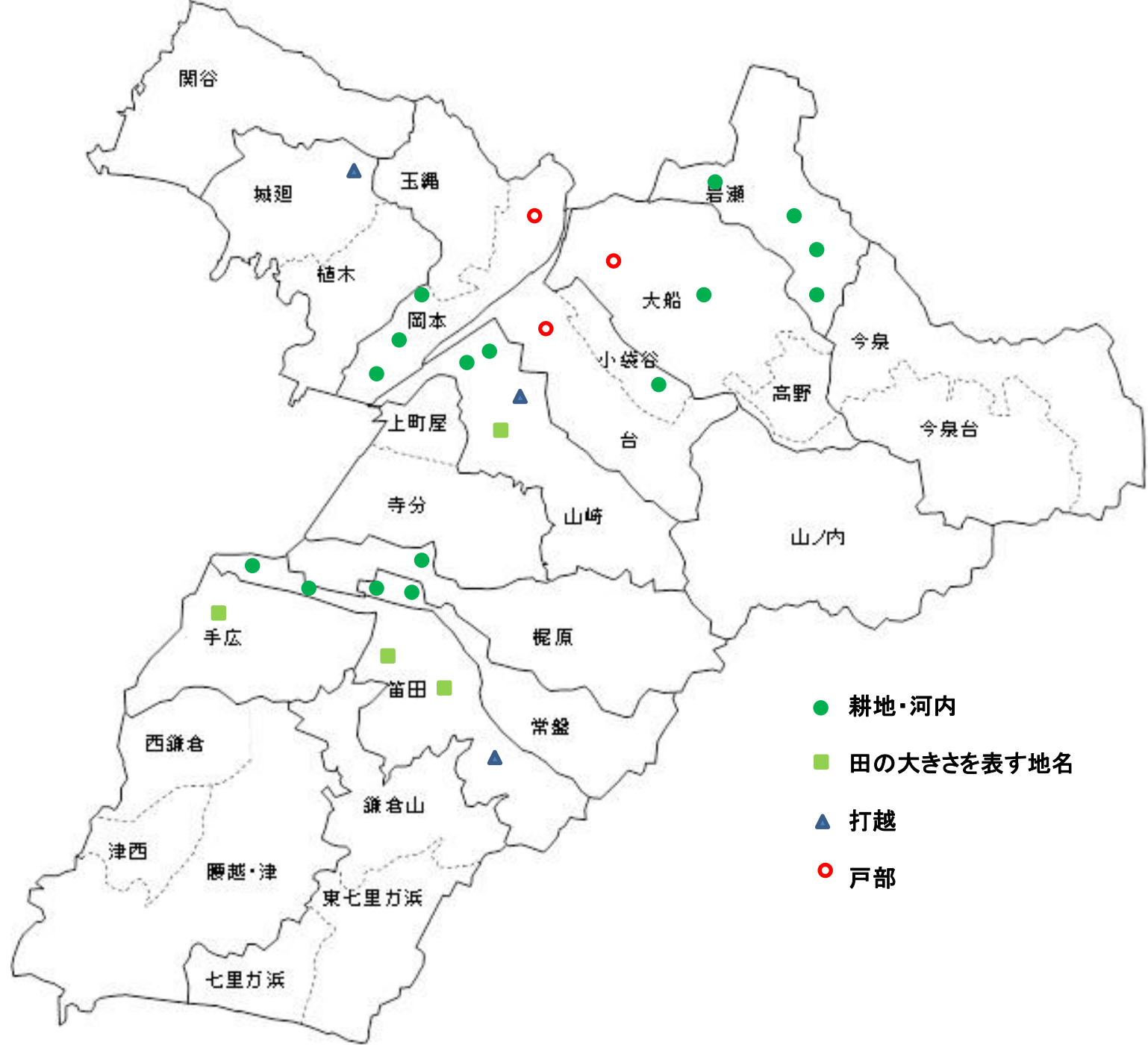
常盤山



北鎌倉
左の写真は映画「麦秋」(昭和26年)より

地名で気付いたこと

- 同じまたは同種の地名が多い
 - 耕地(河内)
 - 打越
 - (大)谷戸、大谷
 - 戸部
 - X反目(田)
 - 亀井、瓜谷
- 腰越・津の字名は分離不能(説明済)





玉縄



山崎



笛田/常盤

打越の場所

写真の記録について

- 何が記録すべき風景かは、そのときはわからない
- 風景が変わって初めて変わる前の風景の記録が必要なことがわかる
- Google Street View でかなりの風景が記録
- しかし、過去の記録がどこまでアーカイブされているか不明
- 「谷戸の記録」ではなんでもない谷戸の風景も撮影記録し 後世に残すことも目的

空写真は国土地理院がインターネット上に公開している写真を使用

地図・空中写真閲覧サービス

地名又は経緯度検索

検索

検索方法: 標準検索

作成・撮影年

西暦 年 から
西暦 年 まで

カラー種別

カラー モノクロ

縮尺

-- ~ --

分類

空中写真 地形図・地勢図等
 主題図 公共測量地図
 国土基本図

検索結果

[地理空間情報ライブラリーによる検索](#)

地図の移動に合わせて更新する

並び: 中心距離 2画面表示

No. 作成・撮影年 分類 範囲

検索結果をサムネイル一覧表示

検索結果をKMLファイル出力

国土地理院・空中写真閲覧で検索

詳細は (続)鎌倉 谷
戸の記録(下)を参照

深沢図書館をはじめ、
市内各図書館で閲覧
可能

本スライド(PDF版)は当面の間
 湘現会ホームページ(湘現会で検索)からCPCの会のページにアクセス
 CPCの会のページのどこかに(場所未定)に本スライドを閲覧できる場所を
 設ける予定

CPCの会のページ
 をクリック



湘南鎌倉生涯現役の会 (略称 湘現会)
 口座(年会費・新年会費等振込先)
 ゆうちょ銀行 記号10230 番号 98786031
 事務局 代表 桑原政二 宅
 住所 〒240-0003 逗子市池子一丁目7番13号
 Tel/Fax: 046-872-2213
 メール info@shuhenkai.com (名称 湘現会)
 会則 [こちら](#)

入会・問い合わせの方法等
 入会やその前の確認など 問い合わせについては [こちら](#) をご覧ください。

本会は、古都鎌倉を中心に湘南地区に居住する、元気なシルバー・エージの人達のための会です。高齢化社会にあって私達の願いは、「健康で元気でいたい、できれば社会のために何か役立つこともしたい、生き甲斐のある生活を返りたい」ということに集約できます。これらの願いを、仲間とともに互いに助け合っで幾分なりとも実現していこうというのが本会の目的です。会員各々がいろいろなグループ活動を自主的に提案し、「この指止まれ」方式で仲間を兼ね、種々の活動を展開しております。

湘現会定例会のご案内

2か月ごとに定例的な講演会と懇談会を開催しています
 これまでの講演記録から

12月の例会予定 12月8日(日)
 時間 午後1時受付開始 午後1時30分講演開始
 演題 認知症への理解・関わりが
 として、高齢者の健康を考える。
 ざらめ認知症トレーナー 水野重信氏

お知らせ(10月13日定例会中止と対応)
 10月13日に予定していた定例会は台風による交通機関の混乱のため中止しました。予定していた会員 青木ゆきお氏による講演(元気で100歳まで生きるツリ)については、来年度に実施する方向で計画します。

お知らせ(スマートフォン向けページの新設)
 画面の横幅が狭いスマートフォン向けのページを新設しました。分科会等のページはスマートフォンでも見られるよう簡素化しました。ただし、PDFのページ、報告・後編のページなどは従来のままです。

お知らせ(令和元年年度例会予定)


活発・多彩な分科会活動
 (会員はどの分科会(複数可)にも参加することができます。)

鎌倉の今昔探索の会(CPC)
 鎌倉中央図書館と共同で鎌倉市内の各地を調査し、過去と比較して報告書にまとめることによる文化的貢献を目指しています。
[詳しく活動のページへ](#)

笑考快談 ぬ
 笑いで心身の健康を維持することを目的としています
 原則として、第2火曜日/午後10時
[詳しく活動のページへ](#)

湘現・鍋の会
 楽しい美味しいものに目のない「食いん坊」の集まりです
[詳しく活動のページへ](#)

湘現・歩こう会
 新山を歩くことの好きな人の集まりです。みんなでおしゃべりしましょう
 原則として、毎月第4木曜日(盛夏時期を除く)



鎌倉の今昔探索の会 (CPC)

シニアライフを元気で、楽しく、趣味を生かして地域社会に貢献したい、自分の住む町のことをもっと知りたい人たちの集まりです。

鎌倉の今昔探索の会 (CPCの会)

鎌倉の今と昔(G世代)を比較するため歩いて調査し、新旧文献・地図を参照しながら調査結果をまとめることを目的としています。
 CPCの名は対象としての地域社会(Community)記録手段としての写真(Photograph)目的としての文化的貢献(Contribute)からきていますが、よりわかりやすい「鎌倉の今昔探索の会」に改称しています。

楽しみ方

- 自分の住む鎌倉をもっともっと知ることができる。
- 鎌倉のことを皆で力を合わせて調査できる。
- 元気に、楽しく生きるために目・指・心を使い、歩いて写真を撮る。
- 調査結果を小冊子にまとめ中央図書館に寄贈し、後世に残す。

会員の記録 昨日の日記